習志野市就学前

保育一元カリキュラム

令和４年４月

習志野市が目指す子ども像

１　明るく元気な子ども

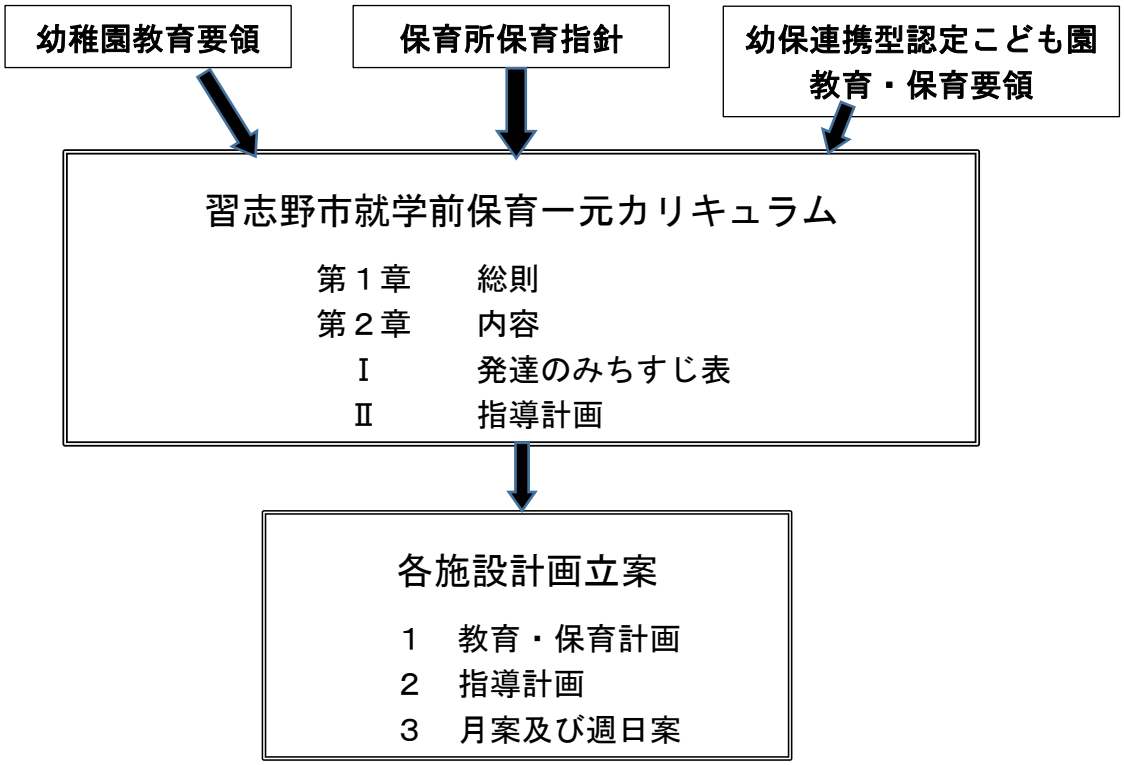
２　友達と仲良く遊べる子ども

３　よく見、よく考えて行動する子ども

習志野市の未来を担う子どもたちが、健全に成長できることを最大の目的として、本市の目指す子ども像を実現するために、ここに「習志野市就学前保育一元カリキュラム」を策定し、本カリキュラムを教育・保育の基本として定める。

就学前の保育にかかわる各施設〔保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園（以下こども園とする）〕は、本カリキュラムを基本とした上で、子どもや保護者の状況、地域性などを踏まえた独自性のある計画を立案し、保育を実施する。

【習志野市就学前北一元カリキュラムの構成】



習志野市就学前保育一元カリキュラム

【目次】

第１章　総則

１　趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２　理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

第２章　内容

第１節　保育一元化
１　保育の基本・・・・・・・・・・・・・・・２
（１）共に生き、育ち合う保育観・・・・・２
（２）個性と社会性の育成・・・・・・・・・２
（３）発達と学びの実現・・・・・・・・・・３
（４）一人一人に応じた保育・・・・・・・・４
（５）乳幼児期から学童期につながる
教育保育の一貫性・・・・・・・・・・４

第２節　子育て支援センターとしての役割
１　子育て環境の変容への対応・・・・・５
２　特別支援事業・・・・・・・・・・・・・５
３　子育て支援事業・・・・・・・・・・・・６

第３節　開かれた運営
１　運営の基本・・・・・・・・・・・・・・７
２　運営の内容・・・・・・・・・・・・・・７

Ⅰ　発達のみちすじ表・・・・・・・・・・・１１

Ⅱ　指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・１２～６５
１　月齢別指導計画・・・・・・・・・・１４～２５
２　期別指導計画　・・・・・・・・・・２６～６５

第１章　総　則

１　保育一元カリキュラムの趣旨

（１）「習志野市就学前保育一元カリキュラム」は、習志野市の全ての就学前の子どもたちが、人権を尊重され、豊かな生活を送り、健全な人間形成の基礎を培うことを目指して、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園等（以下こども園とする）が、幼保の枠を超えて新しい時代の教育・保育、子育て支援及び運営を創造するにあたっての方向性や基本的視点を示す指針である。

（２）習志野市の子どもたちは、現在の子育て世代の保護者の考え方や生き方を反映して、情報に敏感に反応しつつ、様々な形で自己を表現して活発な生活を送っている。

一人一人の子どもが、地域の中で皆から愛され、健やかに豊かな生活を楽しむことが保障されて、その子らしく心身ともに健全に発達し、意欲的に学ぶようになる環境を、社会全体として整えていくことが大切である。

（３）乳幼児期は、人間が最も成長、発達し、人間としての基礎が形成される極めて重要な時期である。

保育所・幼稚園・こども園は、幼保の枠を超えて、子どもの成長を保障する保育内容を構築し実践していくという「幼保一元化」が国の施策としてある。

習志野市として、保育所・幼稚園・こども園が共通した独自の保育の理念、基本を掲げ、家庭、地域と協同して、健全な人間形成の基礎を培っていくことを「保育一元化」として推進していく。

（４）少子化、女性の社会進出などに伴う多様な保育ニーズに応じた、地域での特別保育事業を拡充することが求められている。

また、核家族化、感染症の影響等によって、子ども達が思い切り遊べる施設や機会が減り、様々な体験の機会が失われたり、保護者は孤立感、閉塞感を感じる人達もいたりする。こうした状況が虐待等の問題に発展することのないように、親と子の育ちを支援する子育て支援事業をより充実させることが求められている。

保育所・幼稚園・こども園は、それぞれの施設の機能を活用して、地域における「子育て支援センターとしての役割」を実践していく。

（５）保育所・幼稚園・こども園は、子どもの人権を尊重し、経営・運営方針、教育・保育計画の公表に基づいた、保護者や地域住民の積極的な参画、参加を得ながら、保育、子育て支援をよりよく実践する「開かれた運営」を行っていく。

保育者、保護者、地域住民が保育、子育て支援の実践の中で子どもと対話し、子どもに共感することによって、子どもを中心に互いに感動する体験をし、成長し合うことが大切である。

２　保育一元化の理念

（１）全ての就学前の子どもたちの人権を尊重し、保育所・幼稚園・こども園が家庭、地域と協同して「子どもたちが、基本的安全感、健康で文化的な生活、豊かな遊びを保障されて、心身の調和のとれた発達をし、健全な人間形成の基礎を培う」ことを実現する。

（２）保育所・幼稚園・こども園と家庭、地域とが「子育てパートナーとして互いに信頼し、子育ての場を共有し、子育ての情報を交換し、相談し、交流することによって、子どもを中心に様々な

感動の体験をする」ことを実現する。

（３）保育所・幼稚園・こども園が、家庭、地域の参画、参加を得ながら、「安全な環境、確かな保育、開かれた運営を目指すことによって信頼され、子育てにおいて安心できる地域の「子育て支援センターとしての役割」を実現する。

第２章　内　容

第１節　保育一元化

１　保育の基本

習志野市の全ての就学前の子どもの保育の基本を次のように掲げる。

**「基本的安全感、健康で文化的な生活、豊かな遊びを保障することで、
一人一人の子どもの心身の調和のとれた発達と、自分らしく学び、
生きることを実現し、その子らしい個性と社会性の基礎を培う」**

この保育の基本の実践にあたっては、下記のような認識で取り組む必要がある。

（１）　共に生き、育ち合う保育観

大人が子どもを理解し、子どもに対応することの根本は、全ての子どもの人権を尊重し、大人と子どもが対等な権利の主体として向き合い、共に生き、育ち合う関係であるという基本認識をもつことにある。

子どもは、物事に夢中になる。そのような子どもの創造的な姿は、格別な楽しさを大人に与え、大人を幸福にする力をもっている。大人が子どもと一緒に活動・経験することは、本当に楽しくて面白いことである。保育所・幼稚園・こども園は、子ども、保育者、保護者、地域住民が、互いに対等な主体として向き合い、感動を共有し、共に生き、育ち合う場となることが大切である。

大人は、常に自分の考え方、生き方を見つめ直し、生涯にわたって生きがいのある日々を過ごしていくために学んでいく姿勢をもつことが大切である。そのような真摯で勇気ある大人と関わる中で、子どもは人間として成長していく。

（２）　個性と社会性の育成

人間は生涯にわたって発達し続けることから、可能性に満ちた存在と言える。

子どもは、生まれると同時に、家族と関わり、次第に遊び仲間や近隣の大人、保育者などとの関わりの中に出ていく。その関わりの中で、集団、社会などにおける考え方や行動の仕方を身に付け、社会的環境に適応していくことによって社会性を身に付けていく。

乳幼児期は、子どもたちが生涯にわたり自分らしく生きていくための基盤を培う大事な時期である。

・子どもは、大人や友達に十分に受け止められ、人間や社会に対する愛情と信頼感がもてるような体験をすることが必要である。
・子どもは、人間として自立できると共に、自律できるような確かな体験をすることが必要である。
・子どもは、様々な人間関係の調整の仕方とその意味を知り、自分に自信をもち、友達との

関わりが楽しくなるような体験をすることが必要である。
こうした豊かな体験を積み重ねることによって、一人一人の子どもが、その子らしい個性と社会性の基礎を培っていき、健全な人間形成をしていくことができるように保育をすることが大切である。

（３） 発達と学びの実現

子どもたちをどのように保育していくかについては、子どもが身近な環境に主体的に関わり自ら課題を見つけ、学び、考え、行動することで、その中で問題を解決する能力、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましい体力などの生きる力の育成が大切である。生きる力の育成には、保育者が子どもたちの発達や学びのプロセスを理解していることが必要となる。

子どもは、自分の中に育ってきた力を使って、興味、関心をもったことに、取り組む中で生じる、様々な困難や葛藤を試行錯誤しながら克服することによって自信をもち、新たな知識・能力・態度を身に付け、発達する。

子どもは、やってみたいと心が動く→やってみる→繰り返す→分かる→課題→繰り返す→やっぱりと納得する→次の生活に生かすという営みを通して学び、学ぶ力を身に付ける。

発達は学びを通して確かなものになり、学びは発達の中で起こるものである。保育の中で、発達と学びを実現するには、子どもの欲求がその子どもの能力とよくかみ合うかどうかを見て、体験を通して身に付いた資質や能力を活かして挑戦する活動を自ら選択できるように精選したり提供したりしていくことが大切である。

保育の出発点として、就学前の子どもの発達を理解することが保育者にとって不可欠である。

① 発達の過程には順序性がある。

すでに獲得したものの上に新たな知識・能力・態度を積み重ねながら順序を追って発達は進む。その時々の活動・経験を楽しく十分に行うことが、次の活動･経験をスムーズに行えることにつながる。

子どもの発達を把握し見通しをもった保育をすることが大切である。

② 発達の過程には質的転換期が存在する。

質的転換期は身体的、知的、心理的な力が相互に影響し合って、全体的に大きく変化する時期のことで、子どもの発達を理解する上で大切な節目である。

１歳半頃に始まる自我の芽生えの時期、３歳頃からの第二自我の形成が必要となる時期、そして４歳過ぎの自我と第二自我の自己内対話の始まる時期は、身体的、知的な発達と合わさって全体的な変化の時期であり、質的転換が見られる。

③ それぞれの面での発達は、子どもによって異なる速度で進行する。

「〇〇ができる、できない」「〇〇が早い、遅い」といったそれぞれの面での発達だけを取り上げ比較する見方では、子ども一人一人の発達を理解するのには十分とは言えない。

子どもの発達の過程に照らして子どもを全体的によく捉え一人一人の子どもの行動や表現の本質を理解して、一人一人の子どもに応じた適切な保育をすることが必要である。

④ 身体的、知的、心理的発達は、相互に関連している。

身体的、知的、心理的発達は、互いに深く相互に影響を与え合いながら関連し合って相乗的に進んでいくものである。一人一人の子どもを丸ごと受け止めて理解すると同時に、身体的、知的、心理的な発達のそれぞれの課題を把握した上で、効果的な保育をすることが求められる。

⑤ 発達は、生理的、身体的な諸条件や、文化・地域社会・家庭環境の違いによって進み方や現われ方が違う。

子どもの身体的な特徴や子どもが生活している社会的、文化的背景、家庭状況を把握して、子どもの生活経験がそれぞれ異なるものであることを認識して、保育をすることが大切である。

（４） 一人一人に応じた保育

子ども一人一人に応じた保育は、子どもの基本的安全感、健康で文化的生活、豊かな遊びを保障し、健全な心身の発達と意欲的な学びを実現することである。

子どもが発達の過程のどこにいるのか、その時々の発達を捉えた課題を理解し、その子が挑戦し乗り越えて達成感をもつようにすることである。

その積み重ねが重要で、個々の育ちが集団を活性化し、子どもの更なる成長を促すことにつながる。

一人一人に応じた保育の根本には次のような基本認識がある。障がいのある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き生きと暮らしていける社会を目指すという考え方の中で、心身に障がいのある子どもや慢性疾患のある子どもに対する様々な行政の支援策が行われている。

保育所・幼稚園・こども園は、子ども一人一人について家庭と相談しながら、教育諸機関や保健・医療・福祉関係機関との連携を積極的に図り、相互協力、相互活用の推進に努める。また、保育の効果的な実践として、複数の保育者が担当するチーム保育を適切に取り入れることが大切である。

多くの目で見ることで子どもの理解が深められ、子どもにとっても保護者にとっても、多様な保育者との出会いができ、子どもの生活が豊かになり、広がりが生まれることが期待できる。保護者もみんなに見守られているということで安心感がもてる。

保育の実践にあたっての留意点は、次のようなことである。

① 自ら伸びていく力を持っている存在であること、身体的特質や心理的特性があることに温かい関心をよせて見守る。
③ 子どもの内面の心の動きを捉えながら行動の意味を捉え、発達に必要な活動や経験を探る。
③ 心の動きを読み取った記録や評価が重要で、その積み重ねの中で子どもを長い目で見続けていく。
④ 環境との関わりの中で様々に心を動かし探し求めることに、保育者は共に心を動かし、共に探求し、乗り越えるための知恵を出し合う。
⑤ 試行錯誤し、気付くことに保育者が寄り添う。
⑥ 集団の中でかけがえのない存在として安心して自己発揮できるように、個と集団のつながりを大切にしながら保育をしていく。
⑦ 一人一人の保護者との心のつながりを大切にし、考え合い、話し合う姿勢をもって接していく。
⑧ 特別な支援を必要する子どもは、地域の中で育っていくことを意識し、保護者や関係諸機関と連携を図る。

（５） 乳幼児期から学童期につながる教育・保育の一貫性

保育所・幼稚園・こども園と小学校は、子どもの発達を捉え、乳幼児や児童をより豊かで広い世界へ導き、社会との関わり方を身に付けることを目指す教育・保育をしていくために連携することが重要である。

具体的には一人一人の子どもに、生きる力の基礎を支える３つの資質を幼児期・学童期を通じて明確にし、問題を解決する意欲や豊かな人間性、たくましい体力などの生きる力を身に付けることが大切である。

特に保育所・幼稚園・こども園は幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿、①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量・図形、文字等への関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現を見通した教育・保育を目指していく。

そのために、保育者は、子どもの発達や学びの連続性を踏まえ乳幼児期から児童期への接続期の教育について相互に理解することが重要である。習志野市接続期カリキュラムの活用を推進することで段差の少ない滑らかな就学につなげていく。

教育・保育の理念、基本、内容、実践方法について、乳幼児期・学童期の特性を相互認識し、連続性を確立することで、発達初期の段階における教育・保育の一貫性が生涯、保障される。

保育所・幼稚園・こども園と小学校は地域住民との協同により、乳幼児と児童が同じような遊びや自然体験・社会体験などを通して相互交流を楽しみ、地域住民との交流から刺激を受け、地域への愛着を育むようにすることが大切である。

児童と幼児、児童と保育者、幼児と教師・保育者、教師と保護者・地域住民、保護者と地域住民と幼児・児童などのそれぞれの間で感動体験を共有し、互恵性のある交流を積み重ねていくものとする。

第２節　　子育て支援センターとしての役割

１　子育て環境の変容への対応

子育て環境の変容に対応して、保育所・幼稚園・こども園は、それぞれの施設と機能を活用して、地域の「子育て支援センターとしての役割」を実践していかなければならない。即ち、少子化や女性の社会進出などに伴う様々な保育ニーズの高まりに応じて、地域での特別保育事業を充実する。

また、核家族化、地域コミュニティーの希薄化などに伴って、未就園児親子の中には孤立感や閉塞感を感じる人達もおり、そうした状況を緩和するために、親と子の育ちを支援する地域での子育て支援事業を強化する。

２　特別保育事業

（１）特別保育事業の内容

特別保育事業は大きく二つに分類される。

一つは、もともと保育所等を利用していた人達の生活をより豊かにするためのサービスであり、時間外保育や乳幼児健康支援、一時預かり事業（病児保育、病後児保育など）が典型的なものである。

もう一つは、従前はサービス対象となっていなかった人達に対する新たなサービスであり、一時保育・地域子育て支援型のサービスである。

一時保育事業には、いろいろなジャンルがある。在宅子育て層への支援については、社会的理由から私的理由へと拡大している。

今後、こうした特別保育ニーズはますます複雑、多様化するだけに、それに対応して行政が制度的な整備や施設機能の整備・充実を図ることが大切である。

① 時間外保育

② 産休明け保育

③ 病児及び病後児保育

④ 各種一時保育

イ 保護者の就労形態等により、家庭における育児が断続的に困難となり、一時的に保育が必要となる非定型的保育

ロ　保護者の疾病、入院等により、緊急一時的に保育が必要となる社会的理由による緊急保育

ハ　一時的に保育が必要となる私的理由による保育あるいはリフレッシュ事業

⑤　幼稚園型一時預かり事業

（２）　特別保育事業展開の留意点

①　通常保育と特別保育は、それぞれの子どもにとっては連続した生活であり、子どもの生活のリズムが崩れないように、保育者の配置、連携が行われる職場運営に留意する。

②　特別保育の中でも、子どもの発達を捉えて子どもにとって必要な環境を設定していく。保育者間での話し合いが十分に行われる中で育てられるようにしていく。

③　子どもの心理的、身体的負担に配慮し、家庭での生活と同じようにくつろげる部屋を用意し、地域での生活と同じように内・外などでの自由な遊びができる環境を整えるようにする。

④　保育者は、保護者に特別保育事業のシステムをよく説明する必要がある。保護者と保育者が共通理解を図り子育てパートナーとして協同するために、親が子どもを預ける目的は何か、どんな日数・時間を考えているのか、今まで家庭での養育はどうしていたのか、子どもに対してはどのように教育・保育をして欲しいと思っているのかなどを十分に確認して、預かる必要がある。

３　子育て支援事業

（１）子育て支援事業の内容

保育所・幼稚園・こども園は、施設や機能を地域に開放して、協同して子育て支援活動を展開し、特に、各地域の未就園児親子の育ちと学びについての支援を強化する。

①　遊び場提供事業―――　施設を開放し、遊び場として提供し、遊びの指導、乳幼児同士の交流などを行うと共に親同士の交流を促進する。

②　子育て相談事業―――　子育てについての様々な相談に応ずると共に、専門的な相談のための対応を行う。子育て支援課やひまわり発達相談センター、あじさい療育支援センター、健康支援課との連携をとり、様々な体制でケアしていく。

③　子育て学習事業―――　子育てについての情報の提供、育児講習会の開催など学習の場や機会を提供する。また、地域の他機関の子育て支援活動についての紹介などを行う。

④　子育てサークル事業―　子育ての様々なサークルづくりの支援を行うことやサークルの場の提供などを行う。

（２）子育て支援事業展開の留意点

①　保育所・幼稚園・こども園は地域の未就園児親子の育ちに対して、実態を把握したり、アンケート調査をしたりして、ニーズに沿った対応をする必要がある。親子が気軽に出向けるようにすると共に、友達や子育て仲間を容易につくれるような工夫をしていく。

②　保育所・幼稚園・こども園は未就園児の来園促進にあたっては、施設・設備の再点検や安全面の工夫をしておく必要がある。また、未就園児の来園に際しては「保護者の責任の下で安全管理をする」ということを事前に周知、徹底しておくことが必要である。

③　施設開放の時間帯にも工夫が必要である。できるだけ、保育参加や乳幼児同士の交流ができるようにするには、通常の保育との調整を重視し、必要な対策を立て、実践してい

くことが必要となる。

④ 保育所・幼稚園・こども園は各種の子育て支援事業を展開するにあたって、地域住民にボランティアとして積極的に参加してもらう。その際、事業の目的、内容等についてよく話し合い、共通認識をしていくことが大切である。

第３節　　開かれた運営

１　運営の基本

保育所・幼稚園・こども園の運営の基本は、子どもの人権や保育者の意欲を尊重し、保護者や地域住民の積極的な参画・参加を得て、安全な環境づくり、確かな保育内容の実践、開かれた運営を行うことによって信頼され、子育てにおいて安心できる地域の中核的専門機関となることである。

開かれた運営にあたっては、まず、全職員が民主的に意見を出し合い、お互いの意見を尊重し合い、協力することが重要である。その上で、方針・計画を作成し、それを公表して、保護者や地域住民が参画・参加しやすくしていく。そして、安全な保育環境づくりや確かな保育を目指して、実践の中でオープンに全職員で話し合い協力していく。

また、保護者、地域住民や小学校関係者とも積極的に話し合い、計画の実践・点検について協働していくことが重要である。

２１世紀は、社会が大きく変化する中で、子どもから高齢者までの全ての世代が、生涯にわたって生きがいのある日々を過ごすため、個々のライフスタイルに応じて学び続けることが求められる時代といえる。情報化社会・生涯学習社会の中では、自分のライフスタイルを創り上げるには、自ら学ぶ意欲や自ら考える力を養うことが大切となる。その中で、子育てという営みは、子どもを中心に各世代が学び合う絶好の機会を提供するものである。

保育所・幼稚園・こども園は、子育てにおける地域の子育て支援の拠点である。開放的な雰囲気の中で、親や家族、地域住民などが出入りしやすい風土づくりが大切である。子育てに参加する全ての人が子どもと対話し、子どもに共感することによって、互いに感動を体験し学び合い、成長し合うことができる。

保育所・幼稚園・こども園が子どもを中心にして、保育者・保護者・地域住民の生涯学習、自己実現のできる場となることが重要である。

２　運営の内容

（１）　計画作成、評価、公表

保育所・幼稚園・こども園の運営として一番重要なことは、理念・基本が職員全体に浸透し、同じ考えで保育、子育て支援をしていくことである。常に自分たちで現状の保育、子育て支援、及び運営を見直し、より良いものを創造していくことが大切である。

ＰＴＡや保護者会活動、保護者・地域住民の行事参加、保育参加などを見直し、精選して位置付けるとともに子どもを中心に職員・保護者・地域住民が積極的に話し合い、何でも言い合える環境の中で、考えを一致していくことが大切である。

保護者、地域住民の保育所・幼稚園・こども園に対する評価や意向を確かめ、理念・基本に沿うものであれば、その意見・要望に応え、満足度を高める必要がある。また、職員は、まちづくり会議、地区の住民会議などに参加し、地域の子育てに関する情報の発信、受信源になることが望まれる。

こうした中で、子どもを中心に、職員・保護者・地域住民の意向を反映した運営方針や教育・保育計画、子育て支援計画を作成し、公表することが大切である。

保育所・幼稚園・こども園は、期や年度毎に計画の進捗状況などを点検し、運営と保育の評価

項目について、職員全員で自己評価して課題を確認し、方針・計画を練り直し実践することにより、運営の質的向上を図ることが大切である。

また、保護者には保育所・幼稚園・こども園の「保護者アンケート」を配布して、保育の実施に対する保護者評価を依頼する。その結果を取りまとめて成果と課題を出して年度内に公表し、次年度の課題を明らかにして、保育の一層の充実と改善に努める。さらに、公表した評価は設置者に報告する。

（２）　共通理解とチームワークによる職場運営

保育所・幼稚園・こども園は各種の保育計画を作成し、それを実践するにあたって、職員間でオープンに話し合い共通理解をし、具体的な事前準備を行うことが必要である。

また、実践後は職員間で自分たちの実践過程とその結果について話し合うことが必要である。即ち、職員が行う自己評価と職員間で話し合った結果としての評価、及びそれに基づく対応策についての話し合いが必要である。この活動を日々の職場運営の中心に位置付けていくことが重要である。

さらに保育内容の、具体的な活動・経験の展開策について検討し、それらを進めるための条件をどのように整備したらよいかについてのミーティングを定期的に行うことが大切である。

こうした職員間の共通理解とチームワークを重視する民主的な職場運営により、保育の質を高め、運営全体の向上を図ることができる。

（３）　役割、執務体制の明確化

保育所・幼稚園・こども園の運営における必要な全ての業務についての管理責任者は施設長である。施設長は業務を職員に分担させ、職員がお互いの役割を分かるようにしておく。業務を職員に分担させる組織が業務分掌である。

施設長の役割は、よりよい保育を創造するためにリーダーシップをとることと、職員が優れた保育者、優れた職業人に育つために職員の個性・能力を引き出し、職員それぞれの自己実現が果たされるように援助することである。職員の職務内容や役割分担を明確にし、運営方針、教育・保育計画、子育て支援計画を実現するために必要な一人一人の職務の具体的な業務を示す。

具体的な業務を遂行するに必要な知識・技術・態度を育成するための職員の研修体制をつくる適正な執務条件の整備をすることであり、子どもの育ちを皆で考えることのできる時間と場所を作る。さらに、保育者自身がゆとりをもって、子どもたちのために段取り良く仕事ができるように配慮することがよい保育につながる。

個々の職員の執務体制は、ミーティング時間・保育時間・各種執務時間・研修や研究時間・休憩時間・休暇などが十分に織り込まれたものとして、時間やローテーションの管理が行われる必要がある。職員については、様々な雇用形態となっているだけに、より柔軟で工夫された業務運営が求められる。そうした様々な配慮の行き届いた執務体制づくりが、職員の心身の健康管理につながり、職員間の信頼関係構築のベースとなる。

（４）　仕事管理、時間配分の工夫

保育者が、保育目標を達成するには、㋑環境を整えること㋺いろいろな諸行事の立案・実施・反省㋩家庭連絡の事項や保護者との会合㋥指導計画、保育日誌などの作成㋭個人記録・指導要録・出席簿の諸表簿の整理などである。さらに、㋬運営等に参加するための各種ミーティング㋣内外での研修・研究㋠子育て支援活動などがある。

こうした多岐にわたる仕事に取り組むにあたり、仕事の必要性の判断や、具体化し事前の見通しをもつことは必須で、仕事内容の充実と効率化は同時に進めることが望ましい。

具体的な方策として、人の移動や場の設定、会場の用意や資料の準備など様々に費やされる時

間などの軽減や利便性、会議や研修の運営や学びの向上などにつながることが実証され、更なる進歩が期待されているＩＣＴなどテクノロジーの利用も充実化と効率化に期待できると考える。

（５）　保育者集団としての向上

保育者集団としての資質向上には、保育の理論面や具体策について共通認識をもつとともに、一人一人の保育者のセンス・力量についても、お互いに尊重し合い、理解し合った上で協同して実践することが必要である。

それには、保育者自身が物の見方や考え方をしっかりともつこと、保育者自身の感性を日頃から磨いていくことが必要である。保育者が子どもたちに与える様々な影響を考え、保育者自身が人間としての向上を常に心がけることが大切である。

保育者集団として、子ども一人一人を多面的に捉え、話し合い、自己評価することが大切である。保育者同士の話し合いにおいては、何を評価するのかをはっきりさせ、互いに評価し合える人間関係作りをしておき、子どものために討論していく。

また、保育の実践を記録し、事例を通して意見を交換することにより、今後の保育に役立つと考えられる「実践記録」にまとめ、主観的となりがちな保育実践を客観化し、オープンにしていくことが大切である。

研究・研修においては、事前に目的や目標をはっきりさせて、お互いの考えなどを相互に出し合って討議することが大切である。

（６）　保育者と保護者のパートナー化

保育者と保護者は、子育ての良きパートナーとなることに努めるとともに、保育者として、保護者として成長していく必要がある。

子育てパートナーとしての協同作業としては次の通りである。

① 保育者と保護者の相互信頼関係を確立する。
保護者は我が子に対して、こうあって欲しいという願いをもっている。保育者は、その保護者の思いをよく聞き、尊重し、可能な限りにおいて受け止めることが大切である。そして、常に自己を振り返りながら保護者と子どもの生活を見守ることにより保護者と信頼関係を結ぶことができ、保護者との関わり合いが容易になる。

② 保育者と保護者が話し合い、保育所・幼稚園・こども園生活を含む子ども一人一人の２４時間の生活リズムを確立する。
保護者には、家族としての考え方や家庭としての生活の仕方がある。保育者は、できるだけそれを把握し、発達を捉えての保育課題に照らして、子どもにとって豊かな２４時間の生活となるように保護者と協働していく。

③ 子どもの興味・関心について、どんな小さなことでも子育てパートナーとしてお互いに共有できるように、いろいろな形で情報を交換し、子どもに楽しい活動・経験を保障する。
保育者が子どもの様子について丁寧に保護者に伝え、実践している保育に信頼を得ることで、保護者は保育者に気持ちを語り、保育者の言葉に耳を傾ける。

④ 保育者は、保護者に子どもの発達の過程を丁寧に説明する。保育者は自分たちの行っている保育の目標や内容について説明し、保護者の理解を得ることが大切である。
保護者が納得すれば、子どものこれまでの成長を正しく理解でき、今までにやり残したことや現状での発達の課題を理解し、安心して子どもへ対応できるようになる。
保護者には生活のペースに応じて、保育参加の場を設け、集団の中でいろいろな子どもと触れ合ったり、いろいろな経験を重ねたりして、その上で我が子の様子や成長を感じ

てもらうことが大切である。

⑤　保育者は保護者と対応する場面において、抽象的な表現を避ける。親と子にとっての生活がどうあれば良いのかということを十分考えて、具体的な支援を心がけていくことが大切である。

（７）　地域住民の保育ボランティア

地域に根ざし、開かれた保育所・幼稚園・こども園として、多くの人との関わり合いが生まれるためには、それぞれの保育内容や子育て支援の内容が、いろいろな機会に地域住民に公表され、地域住民に理解されていることが必要である。

さらに、保育所・幼稚園・こども園が、地域住民に対して積極的に保育に参画・参加して欲しいという意思表示をすることで、関わり合いが生まれやすくなる。

子どもはいろいろな人との関わりの中で育つことから、日々の保育に地域の人々にボランティアとして、各種の技能を活かす専門家として、人材登録をして参画・参加してもらうことで、子どもはさらに豊かな経験や、充実した生活ができる。

ボランティアの参画・参加にあたっては、子どもの発達の状況について十分に理解してもらい、子どもにとって有効な関わりとするための準備が必要である。また、地域住民の様々な事情を考えて、多様な参加の仕方ができるように工夫することも大切である。

地域住民などのボランティアは、子どもと過ごすことによって、生涯学習の機会に恵まれるとともに、心身ともに満たされ、自己実現することとなる。

Ⅰ　発達のみちすじ表

①乳児前期（０歳～１歳半頃）

②乳児後期（１歳半～３歳頃）

①発達のみちすじと保育課題＜乳児前期(0歳～1歳半頃)＞

0か月　6か月　1歳　1歳半

身体的発達

生理的反射（呼吸・吸飲・まばたき・咳・くしゃみ・瞳孔反射など）生涯存続

原始反射①（把握反射・足指反射・驚き反射・自動歩行・哺乳反射など）

共鳴動作② → ・上下左右を追う ・暖色を好む ・一点をじっと見る → ・左右180度の **往復可逆追視** → ・上下80度の往復可逆追視 → ・360度の追視

・自分で頭を上げる → **首がすわる** → ・胸を上げる（腹ばい）

・体の動きに頭が遅れず動く → ・重心の側方移動（横向き） → ・仰向けから横向きになる（上半身での回転性の寝返り） → ・仰向けからうつ伏せ → **寝返りの完成** ・うつ伏せから仰向け **手掌支伏臥位④**がとれる

・後方に下がる **後ろばい**（腕を突っ張る） → **腹ばい**（足の第一趾を中心として蹴って前に進む） → **後方交差型四ばい** ・尻を上げ胴が上がる → **高ばい** ・膝を伸ばして両手、両つま先のみ着地 → **前方交差型四ばい** ・左手→右手→右足→左足のロコモーションになる → **這う完成⑤**

つかまり立ち⑦ → **伝い歩き** → **ハイガード歩行**（手を上に） → **ミドルガード歩行**（手が中間の位置） → **ロ-ガード歩行**（手を下にして）

座る事が出来る⑥ → **長座り**（足を前にして） → **正座 ⑧**

屈曲姿勢 → **左右対称姿勢**（手と手、足と足を合わせる） → **手足の伸展運動**（伸ばしたり、縮めたり） → **パラシュート反応**（体が下に落ちる時、手足を細部まで開く） ・座位から前に倒れそうになる時、体を手で支える → **首の立ち直り反応** ・体のバランスを崩した時に頭を中心 ・体が左右に倒れそうになった時、手を伸ばして支える → **保護伸展反応** ・体のバランスを崩した時に体を支える

・握らせるとわずかな間保持できる → ・物に手を伸ばして握る（目と手の協応） → **手がもみじ状に開く ⑨** → ・熊手型でつかむ（積み木を持ち変える） → ・親指を使ってつかむ **（母指対向操作）** → ・親指とひとさし指の指先でつまむ **（尖指尖向操作）⑩**

・7日ではっきりした音に反応 → ・母親の声を聞き分ける

知的発達

鼻母音 → 喉子音（うっくんうっくん） → 口唇閉塞音（プップッ） → 初期喃語（あーあー、おーおー） → **喃語、**志向の音声（まーま、ぶーぶ） → 言葉と動作が結びつく → 定位の音声（あった） → **一語分**（ワンワン、マンマ）

⑪ **認知**（手先でいじる、口に入れてなめる、振る、ひっぱる、目の前で見る） ⑫

志向の指差し → 要求の指差し **（模倣のできはじめ）** → 定位の指差し → **可逆の指差し**（大人の質問に答える）

心理的発達

・快と不快の分化 ・泣き笑いの分化 **二項関係 ⑬** → ・人間の顔に対しての笑い ・社会的快 **おはしゃぎ反応 ⑭** → ・あやされると声を出して笑う ・誰にでも反応 → ・見慣れた人にのみ笑う **人見知り** ・不安や恐れを感じる → ・大人との相互 ・交渉の芽生え ・自分の発見 → **自他の区別** → **自我の芽生え**

実践の重点

①原始反射は6か月までには殆ど消滅する。適切な時期に消滅することが、次の発達に非常に重要となる。

②共鳴動作とは、生まれて一週間の子が20cm離れた場所が見え、 繰り返される動作を真似ること。これはコミュニケーションの基礎となる行動であり、20cmという距離は授乳の時の親と子の距離に等しい。したがって抱いて授乳することは、コミュニケーションの形成上重要である。

③可逆追視とは、上下左右などの逆方向が追えることである。これは首のすわりと大きな関係がある。首の発達はその他咀嚼等にも大きな関係があり、発達上重要である。

④手掌支伏臥位とは、うつ伏せで両手の平をしっかり開いて床につけ、腕を伸ばして胸をあげ、身体を支える姿勢。足が先行した寝返りが出来、手掌支臥位がとれることが、次のはいはいの質に大きな影響を及ぼす。手掌支臥位の姿勢を十分にとらせることが重要。

⑤望ましいはいはいとは、次の4つの条件を満たすことが大切。第一は首を起こして前方を見ながらはう。これは、歩行を獲得した後のバランスの保持に重要。第二はしっかり開いた手の平と伸びた指先で身体を支えること。第三は足の第一趾を中心としたつま先で床を蹴って前進すること。第四はロコモーションの問題であり、手足の左右交差パターンが確立していることが重要。

⑥6か月頃から大人が座らせると座位の姿勢を保持できるがこうした受動的座位は自由のきかない姿勢で好ましくない。7～8か月頃からはいはいするようになると、自力でお座りする。自主的、能動的座位がとれることが大切である。

⑦自力で立てない子どもに歩行練習をすることは、段階を飛び越した働きかけであり、その後の歩行の高次化につまづきを示す場合もある。例えば転びやすい傾向をもっていたり、転んだ時に手を伸ばして体を支えることができなかったり、顔や頭に怪我をしやすい。したがって保育の中では歩くことを焦らず、高這いなどの運動を十分に保障し、ゆっくり歩行の獲得を見守ることが必要。

⑧発達保障のためには、子どもの発達段階に応じた活動の中に、発達抵抗を組織していくことが重要。例えばハイハイや歩行の運動の時、坂や階段を登ったり降りたりするなど、やや難しい経験ができるようにする。

⑨子どもは「屈曲優位から伸展優位」へと発達していく。握った状態の手も5か月ごろになると、きれいにもみじ状に開く。この手の開きは発達上重要であり、開きの悪い場合は発達につまずきがある場合が多い。

⑩子どもの手指は「小指側から親指側」へと機能分化していく。母指対向操作～尖指対向操作への獲得は、対話能力の獲得に重要である。

⑪子どもは日常生活の中でまず初めに目や耳や体全体を使っての意味的経験をし、その経験とその時に発せられる周囲の人々との言語音とを結びつけて、言葉というものの意味や機能を取得していく。

⑫手当たりしだいに物をいじりまわしたり、探索したりすることで子どもは物の性質や意味を学びとる。したがって物を壊したり、汚したりすることを嫌って、叱ったりすると、子どもの好奇心の満足を抑制してしまい、しいては知的発達に影響を及ぼす。したがって危険のない環境を整え、十分な経験をさせていきたい。

⑬大人との一対一の関わりや親身な世話を通して、親密なコミュニケーションを経験し愛されることの心地よさを認識するようになる。こうした人とのかかわりや関わられることの心地よさが特定の大人との「基本的信頼感」をつくる。

⑭おはしゃぎ反応は子どもにとって、最初の対人関係の中での笑いであり、後に音声言語を獲得していくための土台となる。子どもとの十分な関係を持つことが重要。

	0か月	6か月	1歳	1歳半	実践の重点
生活	**睡眠⑯** ・昼と夜の区別不明瞭 → ・夜8時間以上の睡眠（夜をとらえる） → ・生活リズムの確立 → ・昼の目覚めが10時間以上になる → ・午前1回・午後1回の昼寝 → ・午後ｉ回の昼寝（1～2時間） →				⑮二者を中心とした外界との関わりから「子ども－大人－第三者（（物）」という関係が成立する。これが三項関係である。三項関係　が形成されると、外界との関わりが大きく変化する。大人の指差しに反応するかなど、三項関係が形成されているかを把握す　ることは、発達を捉える上で非常に重要である。
	授乳、食事⑰ ・授乳3時間毎 ・一日8回程度 → ・一日5回程度 → **離乳5，6か月** ・離乳食1回（どろどろ状） ・授乳4回 → **離乳7，8か月** ・離乳食2回（舌でつぶせる固さ） ・授乳3回 → **離乳9～11か月** ・離乳食3回（歯茎でつぶせる固さ） ・授乳2回 → **離乳12～18か月** ・離乳食3回（歯茎で噛める固さ） ・牛乳摂取				⑯睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態をきめ細かく観察するよう心がける。（SIDSチェック）うつ伏寝はできるだけ避け、顔の廻りに布団や物がなく、正常に呼吸が出来るような状態をつくる。
	・舌が上顎の吸啜に乳首を巻きつけるようにして押して飲む（重力を利用） ・哺乳反射（4～6か月頃で消滅） → ・舌先の前後運動と顎の連動運動 ・口唇を閉じて飲み込む ・上唇の形変わらず ・下唇が内側に入る → ・上下唇がしっかり閉じる ・左右の口角が同時に伸縮 ・数回もぐもぐして舌で押しつぶし咀嚼する。 → ・上下唇がねじれながら協調する ・咀嚼側の口角が縮む ・舌の左右運動（咀嚼運動） →				⑰授乳は成分の面でも母乳の方が優れていると考えられるが、姿勢やその他スキンシップなどの面でも優れている。したがってできるだけ母乳に近い状態を保障し、抱いて語りかけしながら子どもの目を見て微笑みかけて授乳をしたい。
	・コップを両手に持って飲もうとする →				⑱おむつ交換の場所は一定にし、子どもが不快から快になる大切な場面であるので、十分スキンシップを図り、語りかけと微笑を投げかけゆったり交換する。
	排泄⑱ ・膀胱に尿が溜まるとすぐ反射的に排尿する → ・尿間隔2時間以上尿意をもよおす → ・尿がためられる				⑲排尿行動を意識化させるために、排尿間隔が2時間以上になったら、トイレやオマルで排尿させてみるのが良い。この時失敗することのほうが多いことを覚悟し、失敗しても決して叱らないように心がける。
	・排便反射（授乳後すぐ排便） → ・1日2回程度　排便 → ・便が固くなり、いきむようになる → ・意識的にいきむ → ・便意をもよおす　⑲ → ・排便抑制 ・我慢、知覚				
遊び	**あやし遊び** （いないいないばー） ・見たり聞いたりする ・つかんだり、ひっぱたりする ・しゃぶったり、なめたりする ・音のする方、光の方を見る → **ゆさぶり遊び　⑳** （たかいたかい、お船はぎっちらこ） ・玩具を振り回す ・ひっぱたり、押したりする ・音の出る方に首を向ける ・聞きなれた音に耳を傾ける → **やりとり遊び** （ちょうだい、まてまて） ・音のするものに興味をもつ （つかんだり、叩いたり、振る） ・入れたり出したりする ・物をつまむ ・ボールを追いかける ・おつむてんてん、いないいないばーを真似る ・紙破り ・リズムに合わせて体を動かす ・人の真似が盛んになる ・動物に関心を持つ → **模倣あそび** ・わらべ歌遊び ・押したり、ひっぱたりして歩く ・乗ったり、降りたり、すべったりする ・ころがして追いかける ・両手を使って音を出す ・リズムに合わせて体をゆする ・積み木を積んだり並べる ・蓋の開け閉めをする ・砂場にどっかり座って遊ぶ ・水遊びを喜ぶ ・身近な動物の鳴きまねをする ・スコップやコップを使って、砂遊びや水遊びをする →				⑳6か月頃から子どもは、大人の歌やリズミカルな声がけで、体を揺すられてあやされる「揺さぶり遊び」を好み、平衡感覚を養っていく。揺さぶり遊びの中で「首の立ち直り反応」や「保護伸展反能」が確かに獲得されていく。しかし、あまり低月齢の子ども　に激しい揺さぶりをすることは、脳が完全に形成されていない状態なので危険である。子どもの発達に合った揺さぶりを行っていくことが重要である。
配慮点	・衛生的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常は早く発見し快適に生活できるようにする。 ・一人一人の生活リズムを重視し、食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 ・子どもの泣くという要求表現に対して、大人がその表現を受け止め適切に世話をし、生理的快、社会的快の状態を保障して、基本的信頼関係をつくっていく。その上で目と目を合わせた「あやし遊び」「揺さぶり遊び」などを繰り返　し行うことにより、コミュニケーション の基礎を培い、活動意欲や要求を表現する力を育てることが重要だと考える。さらにこうした遊びを通して、首の立ち直りを強くし発声の土台を育てると共に平衡感覚を養っていく。 ・歩行を獲得していくための、前段運動である寝返り、はいはい、伝い歩きなど、それぞれのみちすじを大切にし、発達をよく見極め、適切な時期に獲得することができるように援助する。この時重要なのは、「いつできた」ではなく　「どのようにできているか」ということである。一つ一つの動きを質・量ともに豊かに保障し、十分に行うことが大切である。特にはいはいは、広い空間とともにはいはいをする仲間を保障しながら楽しく経験していく。 ・全ての発達の基礎は特定の大人との親密な関わり（二項関係）であり、それを土台として物に働きかける三項関係が成立し、より豊かに発達してくる。子どもにかかわる保育者は、子どもにとって人との関わりの重要性を深　く認識し、豊かな愛情をもって接していくとともに、その成長発達の喜びを共有できる存在であり続けることができるようにしていく。				

②発達のみちすじと保育課題＜乳児後期（1歳半～3歳頃）＞

1歳半　　2歳　　3歳

身体的発達

直立歩行の確立（ローガード歩行）①
- ・斜面や段差を好んで歩く → ・後ずさり、横歩き、友達と手をつないで歩く → ・つま先歩き → ・かかと歩き → ・足踏み
- ・走る

直立姿勢 → **斜め姿勢の獲得②**
- ・片足を上げる
- ・目をつぶって立てる
- ・手を下につけて片足を上げる
→ ・少しの間手足をきちんとして立てる
- ・両手を上げて片足立ちできる

階段
- ・両足を一段ずつそろえて登り、はう姿勢で後ずさりで降りる → ・両足を一段ずつそろえて登り降りする → ・下り斜面を降りる → ・片足ずつ交互に出して階段を登りそろえて降りる
- ・少し高い所から飛び降りる → ・その場でジャンプする → ・繰り返し飛び降りる → ・前方にジャンプ（幅跳び） → ・手を前方に出して飛び降りバランスをとって着地する

正座③ → ・しゃがむ → ・立位からしゃがんで物を拾う → ・しゃがんで移動できる

・親指と人差し指の指先でつまむ **（尖指対向操作）** → ・手の左右、上下の移動
- ・動く支点が一つ（往復のある描画）

→ **手首のコントロール力がつく**
- ・支点が2つ(肘と手首、肩と肘)
- ・円錯画(ぐるぐる円を描く)

→ **ねじる**
- ・容器の蓋を開ける
- ・扉のノブを回す

→ ・ねじる、曲げるなど2つの動きを連動させ蓋を開けたり形を変えたりする → **尖指対向操作の確立**

・道具に興味をもつ → ・道具を道具として使う（対象的行為）④ → ・左右の手の機能分化と協応 →

知的発達

一語文(名詞)⑤（ワンワン、マンマ）
- → **一語文の分化　⑥**（使い分けが出来、用い方が厳密になる。30語前後）
- → 動詞の要求語（あけて、ちょうだい）
- → ・質問を繰り返す
- ・物と名の一致（なに？　どうして？）
- → ・呼びかけの言葉＋一語文（ちゃーちゃん、マンマ）

→ **二語分**(ワンワンきた)名詞＋動詞　⑦ 300語前後
- → ・言語で認識し考える力がつく⑧（みたて、つもり）
- → ・問いと答えの関係が成立（なんで、どうして） → 三語文 他語文（形容詞を使う）

・自分の通称が言える（みーちゃん、ノンちゃん） → ・自分の名前を入れて話しをし要求する（しーちゃんねぇ〇〇なんだ） → ・挨拶ができる（こんにちは、いただきます） → ・自分の氏名、性別、年齢 クラスの名、先生、友達の名前が言える

・言われた事を理解し行動する（牛乳持ってきてなど、一つの指示） → ・2つ言われた事を理解し行う（手を洗ったらおやつを食べる） → ・大人と一緒の道具や素材を使って集めたり、運んだり、並べたりする

・3個以上積み木を積む（積み直し、並べ直し） → ・初期の入れ分け
- ・片方に入れる

→ ・一個ずつ交互対称性を持った入れ分けができる → ・多い、少ないが分かる
- ・丸、四角を基本とした形の区別ができる

→ ・多ー少、長ー短、上ー下の反対概念が成立し、選択、配置、表現し始める
→ 1つと、2つが数として分かる 3つ以上はたくさん

・可逆の指差し　可逆の指示　可逆対（つい）指示　可逆対（つい）音声の獲得

心理的発達

自我の芽生え
- ・心の中に対が出来始める（～ではない～だ）
- ・もっと自分が（だだこね）
- ・主人公になりたい(心の高まり)
- ・自分の席、自分の物に執着
- ・場面が変わる時、心の「よりどころ(枕、タオル、人形）」を使う

→ **自我の誕生　⑩**
- ・「～ではない～だ」と自主的な決定をする
- ・気持ちの立ち直りが出来るようになる

→ **自我の拡大**
- ・「いや」が頻繁に出る 自分でしたい、自分で決めたい気持ちの増加
- ・「ひとつ」「たくさん」が分かり、自分には最大、他者には最小
- ・好きな人やロボットになりきって不安を乗り越えようとする

→ **自我の充実**
- ・自分との関係の強弱で自我を制御し始める（自分より小さい子に分けてあげるなど）

二分的評価の時期　⑪
- ・よいー悪い
- ・できるーできない
- ・得意ー苦手

友達への関心＝三層関係の形成　⑫

自分と同じレベルの友達　＝いいもの探しを共有し合う存在であり、憧れたり遊具を取り合う仲間。
自分より小さい友達　＝興味、関心の対象、始めは反応への不安あり、2歳になるとお姉ちゃん・お兄ちゃんとして関わろうとする。
自分より大きい友達　＝好奇心の眼差しを輝かせ憧れの的。怖いこと、初めてのことも憧れの心の高まりで乗り越える。

→ **二人のイメージの共有** →

実践の重点

①抵抗に対して好んで取り組み、乗り越えるのは活動意欲の高まりの現れである。したがってこの時期は、積極的に施設外に出て散歩するなど、発達抵抗を積極的に組織したい。

②斜め姿勢は、手足の指先に力を入れて瞬発的に体位を変動させ、バランスを復元させる。これによって四肢の左右交互性を一層確立させていくのでとても重要。これが基になって重心を移しながら、体を動かす様々な動作が可能になる。

③脚がO脚からX脚に変化してくる。この足の開きが目立つ場合は、一応医師の相談が必要。脚力が弱く転びやすいといった状態となるため、注意が必要となる。

④道具を持ち、繰り返し使いながらその道具本来の使い方を理解し、使うことを「対象的行為」という。対象的行為は1歳半～2歳半の子どもにとって重要な活動である。この時期までの子どもは、言葉で思考するのではなく、何でも触ったり試したり、操作をしたりして思考している。豊かな発想や創造性のためにもさらには言語発達のためにも、道具を使っての水遊び、砂遊びなどを十分に経験する。

⑤1歳過ぎ頃から、少しずつ一語文を獲得し始め、1歳半頃には急速に増える。しかし語彙数によって、子どもの言語表現能力を評価することは、適当ではない。身振りや指差しなどの表現や、言語理解などのコミュニケーション能力がしっかりしていることが重要であり、これが身に付いている子どもは、急速に語彙が増えてくる。この力が不十分な子どもは、その後の言語発達につまづきや、後退を見せることもある。

⑥それまでは、全てを「ワンワン」と表現していた子どもが猫を見れば「にゃーにゃー」犬を見れば「ワンワン」と表現が分化してくる。

⑦2歳近くなると、子どもは二語分を獲得し始める。二語分の獲得には、動詞の獲得が必要である。言葉を意識し始める時期は、生活の中で、大人のいろいろな直接の語りかけが重要となる。

⑧2歳半頃までの子どもは「感覚運動操作」によって思考している。したがってこれまでの探索活動は思考活動そのものであり、十分な経験が次の発達に重要である。2歳半頃からは言葉で考えることができ、「対象的行為」がその思考活動になる。こうした発達の変化を良く見極め、適した関わりをしていくことが大切である。

⑨大人からの質問に答えることを「可逆の指差し」と言う。これは言語理解の面で1歳半の質的転換期を越えて次の段階に入ったかの指標となる。大人の言語を理解しそれによって見通しのある行動が出来るようになるということである。一人一人の育ちの状況を1歳半の時点で確認することは重要である。

⑩この時期は「よくばりな心」が強くなり、トラブルも絶えない。しかし一方でこの段階は本当の所有関係の認識が芽生える時でもある。この欲張りな心の高まりが、言葉が話せるようになり、対比的認識（大ー小、長ー短）の獲得を支える土台のひとつとなる。

⑪「できる、できない」など「二分的評価」をするようになると、「できなかった」事実を積み重ね、苦手意識をもつようになる。この苦手意識を乗り越えていき、自分の世界を広げていくことができるためには、大人の言葉かけが重要になる。苦手があっても、どの子どもも光輝くことがある。この光を丁寧に見出し、共に乗り越えていくことが大きな大人の役割である。

	1歳半	2歳	3歳	実践の重点
生活	**睡眠** ・午後1回の昼寝(1～2時間)	・夜の睡眠時間（11～12時間） ⑬		⑫対比的認識の獲得により、子どもは出来るか、出来ないか常に葛藤している。「お兄ちゃんになりたい」「お姉ちゃんになりたい」と思っているが、本当になれるかと不安をもっている。こんな時に「頑張ること」「しっかりすること」を押し付けられたら、さらに不安になる。よく子どもの心の中を察しながら、一つ一つの思いに共感することから保育を始めたい。
	食事 ・好き嫌いがはっきりしてくる。だいたい一定時間で食べる ⑭	・姿勢正しく食べる → ・こぼさず食べる → ・嫌いなものでも促されて食べようとする		
	・こぼしながらもスプーンで食べようとする	・スプーンを上手に使うようになる(下手持ち)	・箸に関心をもつ　概ね4歳⑮	
	・コップを両手で持って飲む	・コップを片手で持って飲む		⑬子どもは新陳代謝が盛んで、運動も活発であることから、長時間睡眠が必要である。
	排泄 ・出たとき尿意を知らせる　⑯ ・汚れた時に知らせ始める ・不快感を感じる	・尿意、便意を感じる	・尿意、便意を知らせトイレで排出する ・少しずつ我慢できるようになる ・失敗が少なくなる 概ね3歳半	⑭食事の回数は成人と同じ、朝、昼、晩の3回となり、時間帯もほぼ同様となる。しかし、まだ1食の食事での摂取できる量は少なく、栄養面で不足分を間食として補う必要がある。
	・パンツを脱いで一人でトイレやオマルに座る	・パンツを脱がずに下ろしたままで、排泄しようとする ・自分で拭こうとする ・水を流す		⑮スプーンや箸の使用と手指の発達とは、大きな関連がある。手の回転が出来るようになり、スプーンを自在に使うことができ、利き手の第4指が自在に動くようになることで、箸が思うように使える。こうした、手・指の機能の発達をよく把握し、個々に応じて進めていくことが重要である。
	着脱 ・パンツを脱いだりズボンを脱いだりする ・手伝ってもらいながら、上衣を脱ぐ ⑰	・パンツを自分で履こうとする ・靴を履こうとする → ・上衣を手伝ってもらって着る ・ボタンを自分でしようとする ・パンツが履ける	・自分で衣服を着ようとする ・大きいボタンははめられるようになる ・靴も自分で履くが左右違うことがある	⑯排泄の自立は個人差があり、子どもの生活環境の変化や、トレーニングを迎えた月齢と季節との関係、さらにはその時期の心理的抵抗などにも影響されることが多い。さらに一旦自立したように見えても、又元に戻ることもある。保育者は焦らずゆっくり声をかけて排泄の自立に対処していかなくてはならない。
	清潔 ・蛇口をひねってもらって手を自分で洗う ・鼻が出たら知らせる	・促されて自分で手を洗う		
遊び	**模倣遊び**	**みたて・つもり遊び ⑱**	**ごっこ遊び**	⑰身辺自立は、自分で出来る喜びを味わうとともに、大好きな大人に認めてもらうことで、次の楽しいことに対し頑張ろうとする見通しの力をつけていく。したがって大人はこの達成感を共感していくことが重要である。
	・積み木を3個以上積み重ねる ・積み直し、並べ直し、器への入れ直しができる	・8つ以上の積み木を積み重ねる ・積み木を並べその上に積むなど2つの遊びを組み合わせる	・意図をもって表現する（縦と横の結合）	⑱一見単純に見える「みたて・つもり遊び」だが、子どもなりの世界があり、具体的にイメージがあり、意味がある。子どもはこの「みたて・つもり」の世界の楽しさを知ると、より一層「みたて・つもり」を豊かにしていこうとする。つまり、「みたて・つもり」はイメージ力の「製造工場」であり、このイメージの力が、幼児期の表現を豊かにしていく。それはかく・つくるだけではなく、やがてイメージ豊かな話し言葉が文脈を作る力に結びつき、書き言葉の世界を作る土台となる。したがって、十分にこの経験ができる環境を整える必要があり、特に重要な点は　1、再現してみたい生活経験の豊かさをつくること　2、子どもたちが主人公になり「みたて・つもり」を発展させること　3、「みたて・つもり」のイメージの世界を保育者が共有することである。
	・手を動かしてかくことを楽しむ	・円など曲線がかける　概ね3歳～ （形の区別が分かり組み合わせて遊ぶ）	・かいたもの、つくったものに意味付ける	
	・階段を登ったり、坂道や起伏のある場所を好んで歩いたりする ・足を止めいろいろなものに関心を持って触れたり、試したりする ⑲	・目的をもって散歩に行く（公園に行こう、ワンワンを見に行こうなど）	・散歩で、でこぼこ道や坂道を歩き、長い道のりを歩くことができるようになる	⑲歩行の完成と共に、子どもは日々「いいもの探し」をする。「これはいったいなんだろう」と見入ると、必ず友達がやってくる。友達が見つけたものは何でも光り輝き、その世界を共有し始める。「いいもの探し」の心が友達の見つけたものへの憧れの心を育む。憧れこそ、発達を導くエネルギーであり、いろいろなことを学んでいくための原動力である。したがって散歩や庭の散策などの活動を積極的に行っていきたい。
	・わらべ歌遊びや手遊びを喜び、ところどころ真似る ・モデルを真似て音楽に合わせて体を動かす ・穴などに入れたり出したりする ・道具を使って水・砂・土などで遊ぶ ・コンビカーに乗る(始めは後ろに進む) ・滑り台・ブランコなどに関心をもつ ・絵本や指人形を喜んで聞いたり見たりする	・好きな歌を歌ったり、音楽を聞いて体を動かしたりする ・自然物や生活用具に関心をもち、試したり遊んだりする ・人形やままごと道具を使ってつもり遊びをする ・シールを貼ったり紙をちぎったりする ・コンビカーに乗って自由自在に動く ・本来の使い方で固定遊具で遊ぶ ・粘土・砂・水などで遊ぶ ・追いかけられることを喜ぶ	・切ったり貼ったりして意味付けながら好きなものをつくって遊ぶ ・ごっこ遊びに必要なものを見つけて用途にあった遊びをする ・三輪車に乗ろうとする ・ボールで遊んだり、かけっこをしたりする ・追いかけっこ、かくれんぼ遊び ・よじ登って降りるなどの連続遊び	
配慮点	・24時間の生活リズムを作ることが基本となる時期である。睡眠のリズムをはじめとし、食事や排泄、遊びなど諸活動を毎日の生活の中で規則正しく繰り返していく必要がある。 ・対象的行為と探索活動はこの時期の子どもの思考そのものである。したがって何にでも触り、何でも試す。こうした経験ができる場所と時間を十分に保障し、満足いくまで繰り返すことで、次の言語発達を促し豊かな想像性や意欲へとつなげていく。 ・拡大する自我の育ちを大切に受け止め、切り替えしたり、意味付けたりするなどして、心の通い合う世界を共有しながら、第二自我への準備をしていくことができるようにする。 ・歩くことや、全身運動を十分に保障する。特に散歩などで、自然との関わりや友達との触れ合いなどを積極的に行いながら、十分に歩いたり動いたりすることで、直立姿勢と二足歩行を確立していき、歪みのない体を目指していく。 ・「みたて・つもり遊び」を大いに保障する。子どもが生活の主人公を演じ、自分のイメージを十分に広げることができるよう、いろいろな仲間と過ごせる場や時間・空間を整え、大人の適切な関わりによって、さらに人間関係や生活経験を広げていくことが出来るようにする。			

Ⅱ　指導計画

指導計画について

＜月齢別指導計画（8週から3歳未満）＞

乳児期は、視覚・聴覚などの感覚や座る、這う、歩くなどの運動機能、特定の大人との応答的なかかわりを通じて形成される情緒的な絆などの発達の特徴がある。このことを踏まえ、愛情豊かに応答的に、また、一人一人の子どもの育ちを捉えた保育が行われることを重要視した指導計画とする。

＜期別指導計画（2歳児から5歳児）＞

運動機能の発達、基本的生活習慣の自立、語彙の増加に伴い知的興味や関心が高まってくる時期である。また、仲間と群れ、遊び、仲間の一人という自覚が芽生え集団や共同的な活動もみられてくる。これらの発達の特徴を踏まえて個の成長と集団としての生活の充実や活動が多様に展開される保育を重要視した指導計画とする

※2歳児に関しては年齢としては個が基本となる発達であるが、1年間の成長過程の中では子どもの必要から小集団での保育（6人～12人位）に緩やかに移行していく時期でもあり、月齢別指導計画と期別指導計画を作成している。各施設において子どもの発達に応じた指導計画の活用を工夫する。

＜項目についての説明＞

ねらいについて

ねらいには、教育・保育において育みたい※【資質・能力】を子どもの生活する姿から捉えて記載している。子どもが生活全般を通じて、様々な体験を積み重ねながら次第に達成していけることをめざしている。

※【資質・能力】

⑴ 豊かな体験を通じて，感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする，「知識及び技能の基礎」

⑵ 気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。「思考力・判断力・表現力の基礎」

⑶ 心情、意欲、態度、が育つ中で、より良い生活を営もうとする。「学びに向かう力、人間性等」

内容について

内容とは、子どもが自ら環境に関わり展開していく具体的な遊びや活動を通して、総合的に育ってほしいこととする。

環境構成及び援助と配慮

環境構成は、子どもが自らその環境に関わることにより、生き生きと活動を展開しながらねらいが達成できるように、保育者が物的・人的・空間的環境を具体的に示す。また、必要な体験を得られるように、子どもの生活する姿や発想を大切にし、常にその環境が適切なものになるようにすること。

援助と配慮は、子どもの行動を予測しながら行う保育者の直接的な関わりや、間接的な関わりの仕方を示す。

家庭との連携

施設が子どもを育てる上で大切にしていることを、具体的に家庭へ知らせる事項について示す。また、子どもの成長・発達について連携を図り共通理解する事項を示す。

評価

○保育後に、達成できたこと、できなかったことを振りかえり、次の指導へ生かせるように評価する。

・ねらいや活動内容は、子どもの実態や発達に合っていたか。

・子どもの姿から、内面の読み取り及び援助や環境は、適切であったか。

・保育者同士の共通理解と協力体制はどうであったか。

・保護者との信頼関係、地域や家庭との連携はどうであったか。

１　月齢別指導計画

産休明け（８週）～３か月頃

発達の主な特徴	・体重や身長の増加が大きく、皮下脂肪も増大して体に丸みを帯びてくる。 ・一点をじっと見つめたり、上下左右を見回したりする。 ・音や人の話し声に反応し、その方向を見る。 ・腹ばいで頭を持ち上げるようになる。 ・手に触れるとわずかな間、握ろうとする。 ・自分の手を見たり、なめたりする。 ・手と手、足と足を合わせたり蹴ったりする。 ・仰向けで左右に首の向きが変えられる。 ・排泄や授乳など､子どもの欲求に対しての大人の受け止め方や働きかけに対して　快（笑い）と不快（泣く）が分化する。 ・生理的な微笑みからあやされると笑うなど愛着関係が強まる。 ・昼と夜の区別が不明瞭で、一日に睡眠と目覚めを何度も繰り返す状態から夜 8 時間以上眠るようになる。 ・個人差はあるが、授乳は 3 時間毎、1 日 8 回程度が目安である。 ・授乳後すぐ排便することが多い。
ねらい	・食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、周囲にはたらきかけて相手にしてもらう心地よい繰り返しにより、生活リズムが安定する。 ・保健的で安全な環境の下で、保育者の個々に合わせた配慮により、健康に過ごす。 ・保育者の愛情豊かな受容の下で生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活する。 ・スキンシップを十分に取りながら、情緒の安定が図られ、身近な大人との基本的な信頼感を培う。（コミュニケーションの基礎）
内容	・保育者の愛情豊かな受容的関わりの下、食欲・睡眠・排泄など生理的欲求が満たされ、心地よく過ごす。 ・保健的で安全な環境の下、体調の変化に対するきめ細やかな対応により、健康に過ごす。 ・おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。 ・個々に合わせてゆったりとした環境の下で授乳を行い、生理的な欲求が満たされ安心感をもつ。 ・受容的関係の中で、見る・聞く・触るなどの経験を通して、外界を認識し、身体感覚が育つ。

環境構成と配慮	・身体機能が未熟であり病気にかかりやすく、また生命の危険に陥りやすい為、体の急激な変化に対応できるように、一人一人の子どもの状態を十分に観察する。 ・睡眠中の子どもの顔色や呼吸の状態をきめ細かく観察する。（ＳＩＤチェック） 仰向けに寝かせ、正常に呼吸ができるような状態にし、変化を見逃さないようにする。 ・愛情豊かな特定の大人との豊かな関りにより、子どもの様々な欲求を快適に満たし、子どもとの信頼関係を築き、温かい雰囲気の中で過ごせるようにする。 ・生理的機能が未熟なため、保育室の温度や湿度の調整、衣服の調整などをきめ細かく行う。 ・おむつ交換は、スキンシップを図り、不快から快になる心地よさが感じられるようにする。 ・授乳は抱いて語りかけたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりとした気持ちで行う。 一人一人の子どもの哺乳量を考慮して調乳し、哺乳後は必ず排気させいつ乳を防ぐ。 ・明るく心地よさとやすらぎのある空間を整えると共に、外界に対しての認知を促すことができる玩具等を整える。 ・寝具や玩具等の室内用品は、消毒したり日光にあてたりするなど常に清潔に留意する。
家庭との連携	・授乳の内容（母乳かミルクか）を聞き取り、母乳を冷凍保存で使用する場合は細心の注意と綿密な連絡の上で実施していく。 ・２４時間過ごす子どもの生活を視野に入れ、家庭及び所・園での睡眠や授乳の生活リズムをお互いに把握できるように細かく連絡し合う。 ・快適で清潔に生活することができるように、衣服やおむつについては清潔なものを用意してもらう。 ・子育ての情報や所・園での生活を細かく伝え、子どもの成長を共に喜んだり、保護者自身も徐々に所・園に慣れることができるようにしたりする

３か月～６か月頃

発達の主な特徴	・首がすわり左右１８０度首を動かして、追視することができるようになる。 ・うつ伏せから胸を上げることができるようになる。また、仰向けから横向きになり、やがて寝返りができるようになる。 ・手足を伸ばしたり、縮めたりする。 ・物に手を伸ばして握る。（目と手の協応）　手がもみじ状に開くようになる。 ・特定の大人に対して、笑いかけたり泣いたりなどして自分の要求を伝えようとする。 ・あやされると喜び、機嫌のよい時など「あーあー」「うーうー」などの初期の喃語を発するようになる。 ・眠っている時と目覚めている時がはっきりしてきて、生活リズムが確立してくる。 ・１回の授乳の量が増え１日５回程度になる。唇を閉じて飲み、舌先の前後運動と顎の連動運動が可能になる。 ・離乳の開始時期となり、ミルク以外のどろどろ状の物をスプーンから摂取できるようになる。（離乳食１回　授乳４回程度） ・排便が１日２回程度になる。
ねらい	・特定の大人による愛情豊かな受容の下で、心理的欲求が満たされ心地よく生活する。 ・一人一人の子どもの生活リズムを重視して、食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ安心して過ごす。 ・保健的で安全な環境の下で、心地よく生活する。 ・安全で伸び伸びと体を動かせる環境の下で、寝返りや腹ばいなど体を動かそうとする。 ・喃語の音を真似て返したり、優しく語りかけたりし、要求に応じてもらえた喜びを感じる。 ・安心できる環境（人的、物的）の下で、聞く・見る・触れるなどの感覚が芽生える。
内容	・室内外の快適な温度、子どもの健康状態に合わせて衣服を調節してもらい心地よく過ごす。 ・家庭状況や発育状況、健康状態に合わせて離乳食を開始し、ミルク以外の味覚や形状に慣れる。 ・立位で抱かれた状態で屈伸をしたり、腹ばいや寝返りをしたりして、体を動かすことを喜ぶ。 ・赤ちゃん体操やおむつ交換時のマッサージなどを取り入れ、保育者の優しいスキンシップによって、心地良く体を動かす。 ・優しい語りかけや歌いかけ、泣き声や喃語への応答により保育者との関わりを喜ぶ。 ・優しく抱かれながら、きれいな色彩や音の出る遊具に触れて遊ぶことを喜ぶ。

環境構成と配慮	・健康状態を十分観察し、常に看護師との連携を図り、疾病や異常に対して速やかに適切な対応をする。 ・保育室は天候に応じて温度・湿度の調整を行うと共に、一人一人の発育や発達状態、健康状態に応じて情緒の安定が図れるように、室内の色彩やベットの位置などその都度適切に整える。 ・子どもの心地よい体位で遊ばせながら、寝返りや腹ばいの機会をつくるようにする。 ・目覚めている時は個別に抱き上げたり、あやしたり、優しく揺らしたりして、人に対する関心や周囲に対する興味が育つように配慮する。 ・玩具などは素材・大きさ・形・色・音質など子どもの発達状態に応じて、適したものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるものになるよう工夫する。 ・玩具は常に安全で清潔にする。 ・体調や天候をみて、外気に触れる機会をつくる。 ・体調や便の状態をみながら栄養士と連携をとり、無理なく離乳の開始を進めていく。
家庭との連携	・授乳の内容（母乳かミルクか）を聞き取り、母乳を冷凍保存で使用する場合は、細心の注意と綿密に連絡を取り合い実施していく。 ・寝返りやはいはいの準備期であるので、動きやすい衣服を用意してもらう。 ・子どもの２４時間の生活を視野に入れ、睡眠や授乳などの生活リズムが安定するように家庭と所・園とが連携できるように配慮していく。

６か月～９か月頃

発達の主な特徴	・仰向けからうつ伏せ、うつ伏せから仰向けになることができるようになる。 （寝返りの完成） ・うつ伏せの状態で体を上げることができる。（手掌支伏臥位） ・うつ伏せになって後ろに下がったり、腹ばいになり前に進んだりするようになる。 ・脇の下を支えられて足でぴょんぴょんと跳ねるようになる。 ・一人で座ることができるようになる。 ・体が左右に倒れそうになった時、手を伸ばして支える。 ・物をつかみ、持ち換える。（熊手型つかみ） ・人見知りをするようになり、不安や恐れを感じると特定の人に甘え、後追いが始まる。 ・人見知りや警戒心・甘えなどの様々な感情が表れ、嫌な時には強く泣き特定の人に甘える。 ・「バーバー」「アブー」などの喃語を盛んに発する。 ・目覚めている時間が１０時間以上になる。（昼寝３，４回程度） ・舌でつぶせる固さのものを食べることができる。（離乳食２回授乳３回程度） ・便が固くなり、いきむようになる。
ねらい	・保健的で安全な環境の下、心地よく生活する。 ・体の状態をきめ細かく観察してもらい、健康に過ごす。 ・安全で活動しやすい環境の下で、姿勢を変えたりはって移動したりなど十分に体を動かす。 ・様々な味の離乳食を試したり、安心してミルクを飲んだりする。 ・保育者の愛情豊かな受容の下で、スキンシップや優しい関わりを喜ぶ。 ・保育者の優しい語りかけや発声、喃語に応答してもらい、発語の意欲が育つ。 ・聞く・見る・触れるなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を働かそうとする。
内容	・清潔で衛生面に十分配慮された環境の下、一人一人の生活リズムの中で安定感をもち、ゆったりと過ごす。 ・一人一人の子どもの心身の発育や発達の状態を踏まえた対応により、気持ちよく過ごす。 ・おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。 ・安心できる保育者との関わりの下で、離乳食を食べたりミルクを飲んだりして、機嫌よく過ごす。 ・寝返り・はいはい・お座りなどそれぞれの発達に合った体の動きを喜ぶ。 ・保育者の応答的な触れ合いや言葉かけにより、欲求が満たされ安心感をもって過ごす。 ・保育者との関わりの下、優しい語りかけや喃語に応答してもらい、喜びや心地よさを味わう。 ・玩具などを手にもつ・いじる・打ちつけて音を出すなどして楽しむ。

環境構成と配慮	・母体免疫が弱まり感染症にかかりやすくなるので、日々の様子を観察し、変化がある場合には適切に対応する。 ・一人一人の運動発達の表われ方の違いを理解し、楽しんでいる姿勢や移動を十分に経験することができるようにしていく。 ・発達や興味に合わせて安全な環境をつくり、安心して手を伸ばしたり口にしたりできるよう、玩具など点検や消毒に努める。 ・授乳や離乳は、一人一人の子どもの健康状態や食欲に応じて行うと共に、咀嚼や嚥下など一人一人の発達状態を適切に促すことができるように、食品や調理形態等に十分配慮していく。 ・特定の保育者との温かい触れ合いや優しい語り掛けが、子どもの情緒を安定させ、順調な発育や発達を支えることを認識して、子どもにゆったりとした気持ちで接するように心掛け、基本的信頼感を確かなものにする。 ・人見知り、不安、甘え、恐れ、怒りなどの感情の表われ方を理解して、共感し受け入れ、気持ちが安泰できるように接していく。 ・保育者が言葉にならない思いや欲求を発生や喃語から汲み取り、それを言葉に置き換えながら関わることで、安心感や心地よさを感じられるようにする。 ・自分から玩具に向かっていこうとする意欲的な行動が満たされるような環境をつくっていく。 ・外気浴をしながら身の回りの様々なものに触れ、見たり聞いたり手で触れたりなど、感覚の発達が促されるようにする。
家庭との連携	・離乳食を進める大切な時期なので、連絡を密にし無理のない内容で進めることができるよう、食品や調理形態など具体的に連絡し合う。また、新しい食品を摂取したときの便や皮膚の状態などを家庭と連携して観察していくようにする。 ・歯が生え始める時期なので、口の中を清潔にすることに心がけてもらう。 ・寝返りや、ずりばいなど動きが活発になると共に、変化の多い時期なので子どもの小さな変化もできるだけ保護者に伝え、成長の喜びを共感し合うことができるようにする。 ・生活リズムを整え、規則正しい生活と十分な休息を心がけてもらう。

９か月～１２か月頃

発達の主な特徴	・膝と手の平をついて体を上げて四ばいができるようになったり、膝を伸ばして高ばいをしたりするようになる。 ・つかまり立ちから伝い歩きをするようになり、移動運動が活発になる。 ・親指を使って掴むようになる。（母指対向操作） ・相手の言っている言葉と動作や物が結びつく。 ・志向のある喃語（マーマー・ブーブー）を発する。 ・相手の模倣を喜んでするようになる。 ・大人の指差しに反応し行動するなど、自分と大人と第三者（物）との三項関係が形成される。 ・まとめてぐっすり眠ることができるようになる。（午前１回午後１回程度の昼寝） ・歯茎でつぶせる固さの物を食べることができる。（離乳食３回 授乳３回程度） ・便意をもよおすと意識的にいきむようになる。 ・「ちょうだい」「まてまて」など保育者と関わって遊ぶことを楽しむ。
ねらい	・保健的で安全な環境と安定した生活リズムの下、健康に過ごす。 ・安全な環境の下で、体を動かすことを喜び、はいはいやつかまり立ちなどの移動運動を楽しむ。 ・楽しい雰囲気の中で、食べる喜びや楽しさを味わう。 ・自分の欲求を満たしてくれる特定の人に愛着をもち、安心して過ごす。 ・スキンシップやふれあい遊びを楽しみ、よく笑い、人と一緒にいる喜びを味わう。 ・指差しや喃語、片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやりとりを喜ぶ。 ・保育者と一緒に様々なものに触れながら手や指の機能をはたらかせ、豊かな感覚を味わう。
内容	・一人一人の子どもの心身の発育や発達、生活リズムに合わせて心地よく過ごす。 ・お座り・はいはい・つかまり立ち・伝い歩き・立つ・歩くなど、自由に動きながら十分に体を動かす。 ・一人一人の状況に応じた調理形態で、いろいろな食べ物を見たり自分で口に運んだりして喜んで食事をする。 ・一人一人の排尿間隔に合わせておむつを取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 ・生活や遊びの中で保育者のすることに興味をもち、身振りを真似たり、発語を応答したりして楽しむ。 ・つまむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。

環境構成と配慮	・常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常は早く発見していく。 ・発達が進み、新しい行動が可能となると行動範囲が広がるので、身の回りの物などはいつも十分な点検を行い、安全を確認した上で探索意欲を満たして自由に遊べるようにする。 ・この時期は伝い歩きがはじまるが、はうことも十分に経験することができるようにする。 ・一人一人の子どもの甘えなどの欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・一人一人の状態に合わせて食品の種類や量を増やしたり、大きさや固さなどの調理形態を変化させたりして離乳食７～８か月から９～１１か月食へとスムーズに移行することができるようにする。 ・「おいしいね」と優しく共感する保育者の言葉かけの中で、「食べたい」という気持ちが満足できるようにし、食べることが楽しく嬉しい気持ちが膨らむようにする。 ・活動状態や健康状態を考慮しながら、安心できる環境をつくり、必要な午睡が十分できるようにする。
環境構成と配慮	・一人一人の子どもと関わる中で、声や表情、視線に目を見て共感し、期待や楽しさ、様々な思いから発する声や喃語、片言に応え、発語の意欲を育んでいく。 ・子どもが自ら向かって、見たい、触れてみたいと感じられるように玩具類の大きさ・質・形・手触り・色合いなどに変化をもたせたり、創意工夫をしたりして環境を整える。 ・興味を示して自ら関わろうとしている時は見守り、不思議さや楽しさを感じ、表現する姿に対して共感していく。
家庭との連携	・離乳食の具体的な進め方をその都度細かく連絡し、様々な食材に触れる経験ができるように知らせる。 ・歯や口腔内を清潔に保つための具体的な方法を知らせ、習慣化できるように働きかける。 ・這うからつかまり立ち・立つ・歩くなど目覚ましい発達をする変化の多い時である。子どもの小さな変化もできるだけ保護者に伝え、成長の喜びを共感し合えるようにする。

１２か月～１歳３か月頃

発達の主な特徴	・手足を交差して、すばやく四つばいすることが出来るようになる。 ・不安定ながらも自分で立って歩くことができるようになる。特徴として手を上にあげてバランスをとる。 ・足を前に出して、長時間座ることができるようになる。（長座り） ・親指と人差し指の先を使って、物をつまむことができるようになる。 ・「あった」「あっち」など、定位の指差しをしたり音声を発したりする。 ・興味をもった物の傍にいって触ったり、取ったりする。 ・排尿の間隔が次第に長くなる。 ・一日の生活リズムが安定し、午睡が１日１回になってくる。 ・歯茎で噛める固さの物が食べられる。（離乳食３回から次第に乳児食に移行。） ・大人の模倣を盛んに行うようになる。まねっこや「ちょうだい」「どうぞ」などのやりとりをする。
ねらい	・保健的で安全な環境をの下で、快適な環境に心地よさを感じる。 ・はう・立つ・歩くなど一人一人の発達に応じた動きを楽しむ。 ・手づかみや自分でスプーンをもつなど、自分で食べようとする意欲が育つ。 ・身近な人に甘えや欲求を受け止めてもらい、情緒が安定する。 ・指差しや動作に伴う発語を受け止められ、言葉が芽生える。 ・つまんだり、引っ張ったりなど、手先や指先を十分に使って遊ぶ。 ・生活の中で、様々な音、形、色など、見たり感じたりなどの感覚を味わう。
内容	・食べたい、寝たいなどの生理的欲求が満たされ、心地よく生活する。 ・はう・立つ・歩く・よじ登る、くぐるなど、全身を使って遊ぶ。 ・スプーンを使って食べたり、コップで飲んだりすることに慣れていく。 ・保育者や身近な人の行動に関心をもち、簡単な模倣を楽しむ。 ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやりとりを楽しむ。 ・保育者に見守られて、玩具や身の回りのもので一人遊びを十分に行う。 ・つまむ、叩く、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 ・保育者と一緒に草花やきれいな色彩のものを見たり、動物や身近なものが表現されている絵本などを見たりして喜ぶ。
環境構成と配慮	・一人一人の子どもの発育・発達状態を把握し、子どもが興味をもって自分からしてみようとする意欲を大切にしながら温かく見守る。 ・排泄は一人一人の排尿間隔を把握し、おむつが汚れたら優しく言葉をかけながら取り替え、きれいになった心地よさを感じられるようにする。 ・子どもの行動を見守り、満足いくまで時間をとるようにして探索活動などが十分に経験できるようにする。 ・探索活動が活発になると危険を伴う姿が予測されるので、適切な対応ができるように見守り、探索への意欲が知的な発達を育んでいくことを保育者は意識して関わっていく。 ・１対１の言葉かけや絵本を一緒に見るなどして、話したい気持ちが十分に満たされ、発語をさらに促していくことができるようにする。 ・行動が活発になるので、十分な休息がとれるように配慮する。
家庭との連携	・動きが活発になり危険を伴う事が多くなるので、家庭内の安全に配慮してもらう。 ・様々な食材に慣れる大事な時期であるので、栄養士や担任を通じて調理方法　や食べさせ方を知らせていく。

１歳３か月～１歳６か月頃

発達の主な特徴	・手を中間の位置にしてバランスをとって歩く姿から、次第に手をおろして歩くようになる。 ・はう姿勢で階段を登り、後ずさりで降りてくる。 ・「ワンワン」「マンマ」など一語文を話す。 ・大人の質問に対して指差し）をしたり、言われたことをしようとしたりする。 ・自分でしようとする気持ちが芽生える。 ・大人のすることをじっと見たり、真似てみたり、他児の持っている物やしていることに関心をもつようになる。 ・コップを両手に持って、自分で飲もうとする。
ねらい	・食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ・様々な食材や調理形態に慣れ、食べることを喜ぶ。 ・安全で活動しやすい環境の下、様々な動きを楽しむ。 ・安心できる保育者の下、自分以外の人に関心をもち関わろうとする。 ・保育者との応答的な関わりを喜び、言葉が芽生える。 ・身の回りの様々なものに自由に触れて遊び、外界に対する好奇心や関心をもつ。
内容	・食事や午睡、遊びや休息などの生活リズムが安泰する。 ・様々な食材や調理形態に慣れ、咀嚼して飲み込もうとしたり、自分で食べようとしたりする。 ・登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなどの体を動かす遊びや、いじる、たたく、つまむ、転がすなど手や指を使う遊びをする。 ・身近な人との信頼関係の中で、自分の気持ちを表そうとする。 ・表情や身振りでおむつが汚れたことを伝えようとし、交換してもらうことで心地よさを感じる。 ・驚きや満足感などを表しながら、探索を楽しもうとする。
環境構成と配慮	・一人一人の子どもの健康状態や生活リズム、温度や湿度に合わせて、快適に過ごせるようにする。 ・様々な食材や調理形態に慣れることができるように、栄養士と連携をとり、一人一人の子どもの状態に合わせて乳児食へ移行していく。 ・好き嫌いが出てくる時期であるが、励ましたり、褒めたりして少しでも食べようとする意欲をもつことができるようにする。 ・おむつが汚れたときの子どもからのサインを見逃さず、タイミングよく交換する。 ・一人一人の子どもに適した接し方で、安心して眠ることができるようにする。また、目覚めたときは温かい言葉をかけ、必要に応じて衣服を着替えるなど適切な対応をする。 ・戸外に出ることを積極的に取り入れていくが、戸外に出るときには日照や気温などに注意して、帽子や服装に配慮し、子どもの体調に合わせて無理をしないようにする。また、水分補給を適切に行う。 ・保育者へ依存したい気持ちはいつでも温かく受け止め、安心して自己主張をしたり、要求を伝えたりできるようにしていく。 ・探索活動が十分できるような環境を整え、繰り返し触れたり見たり感じたりした満足感や驚きなどを、受け止めていく。また、探索をとおして、物の扱い方や身のこなしを経験できるようにしていく。
家庭との連携	・離乳食が完全に終了し、乳児食へと移行できるように家庭と連携をとって進める。 ・おむつに排尿や排便した時の子どもの様子を見逃さず、早めに交換して心地よく過ごせるようにしてもらう。 ・活動がより活発になり家庭でも誤飲等の事故が発生しないように、注意すべき点などを伝えていく。 ・家庭と所･園での様子を細かく伝え合い、子どもの思いや欲求に丁寧に応えていけるように連携を図っていく

１歳６か月～２歳頃

発達の主な特徴	・斜面や段差のあるところを好んで歩いたり走ったり、少し高いところから跳び降りたりするなど活発に体を動かす。 ・両足を一段ずつ揃えて階段を登り降りするようになる。また、立位からしゃがんで物を拾ったり、遊んだりする。 ・クレヨンなどを持って上下・左右の線を描いて楽しむことから、次第に手首のコントロール力がついて、ぐるぐる丸を描く。 ・尿や便が出たときに知らせたり、時々尿意や便意をしぐさや言葉で伝えたりして、オマルやトイレに座って排泄することもある。 ・乳児食が食べられるようになり、次第に好き嫌いがはっきりしてくる。 ・こぼしながらも自分でスプーンを使って食べようとする。また、コップを両手で持って自分で飲む。 ・自我が芽生えて、「〇〇じゃない〇〇だ」と自主的な決定をするようになる。 ・他児の持っているもの、していることに興味をもち、同じことをしようとする。 ・積み木を３個以上積んだり、入れ分けたりなどができるようになる。 ・一語文の数が増えて形や色の使い分けができるようになり、物と名詞などが一致してくる。次第に二語文を話すようになる。 ・「これは？」「どうして？」などの質問を繰り返すようになる。 ・大人や他児の真似をして楽しむ。（模倣遊び） ・歌や手遊びを喜び、リズムに合わせて体を動かしたり真似をして歌ったり手を動かしたりする。 ・わらべうた遊びや手遊びを喜び、ところどころ真似る。
ねらい	・安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ ・様々な食材や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食べようとする。 ・安心できる保育者との関係の中で食事や排泄・着脱などをとおして、自分でしようとする気持ちが芽生える。 ・行動範囲が広がり、探索活動を楽しみながら身の回りの様々な人に気付いたり、様々なものに触れたりなど興味関心をもつ。 ・保育者の応答的な関わりや話しかけにより、言葉を使う楽しさを感じる。 ・絵本や玩具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。
内容	・保育者の優しい言葉かけと援助により、衣服の着脱に興味関心をもつ。 ・ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする。 ・オマルやトイレに興味をもち、保育者に促されて排泄しようとする。 ・自分でしようとする気持ちを見守り、適切に援助しながら満足感を味わえる経験を積み重ねる。 ・好きな玩具や遊具、自然物に自分から関わり十分に遊ぶ。 ・保育者に見守られて、外遊びや一人遊びを十分に楽しむ。 ・手や指を使う玩具で遊ぶ経験や、道具を使う経験を十分に行う。 ・保育者の声かけに喜んだり、自分から片言で話したりすることを楽しむ。 ・興味のある絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。 ・保育者と一緒に歌ったり、簡単な手遊びをしたり、体を動かしたりして遊ぶ。

環境構成と配慮	・食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、日常の心身の状態を把握しておき、無理なく個別に対応する。 ・排泄はゆったりとした気持ちで対応し、子どもが自分から便座に座ってみようと思うような話し方や接し方をする。 ・歩行の発達に伴い行動範囲が広がり、探索行動が活発になるため、予測できない行動が多くなるので、安全な環境を整えていく。 ・子どもの相互のトラブルが多くなるが、個々の気持ちを受け止め、保育者の優しい語りかけなどにより、お互いの存在に気付くようにする。 ・全身を使うような遊びや手や指を使う遊びでは、子どもの自発的な活動を大切にしながら時には保育者がやってみせるなど、保育者と一緒に楽しんで遊べるようにする。 ・自分でしようとしている時や何かに熱中している時は、温かく見守る。また、子どもの発見や驚きを見逃さず受け止め、好奇心や興味を満たし共感できるようにする。 ・保育者と一緒に絵本を見ながら絵本の内容を動作や言葉で表したり、歌を歌ったりして模倣を楽しめるようにする。
家庭との連携	・食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、家庭での食事の様子をできるだけ細かく把握できるようにする。また、所・園での食事の様子や変化についても細かく知らせる。 ・排泄については、子どもの状況を丁寧に伝え、オマルや便座に座るなど一人一人の状況に応じて進められるようにする。 ・友達とのトラブルが増える時期であるが、重要な発達の現れであることを知らせていく。

産休明け（8 週）～３か月頃

発達の主な特徴	・体重や身長の増加が大きく、皮下脂肪も増大して体に丸みを帯びてくる。 ・一点をじっと見つめたり、上下左右を見回したりする。 ・音や人の話し声に反応し、その方向を見る。 ・腹ばいで頭を持ち上げるようになる。 ・手に触れるとわずかな間、握ろうとする。 ・自分の手を見たり、なめたりする。 ・手と手、足と足を合わせたり蹴ったりする。 ・仰向けで左右に首の向きが変えられる。 ・排泄や授乳など､子どもの欲求に対しての大人の受け止め方や働きかけに対して　快（笑い）と不快（泣く）が分化する。 ・生理的な微笑みからあやされると笑うなど愛着関係が強まる。 ・昼と夜の区別が不明瞭で、一日に睡眠と目覚めを何度も繰り返す状態から夜 8 時間以上眠るようになる。 ・個人差はあるが、授乳は 3 時間毎、1 日 8 回程度が目安である。 ・授乳後すぐ排便することが多い。
ねらい	・食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、周囲にはたらきかけて相手にしてもらう心地よい繰り返しにより、生活リズムが安定する。 ・保健的で安全な環境の下で、保育者の個々に合わせた配慮により、健康に過ごす。 ・保育者の愛情豊かな受容の下で生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活する。 ・スキンシップを十分に取りながら、情緒の安定が図られ、身近な大人との基本的な信頼感を培う。（コミュニケーションの基礎）
内容	・保育者の愛情豊かな受容的関わりの下、食欲・睡眠・排泄など生理的欲求が満たされ、心地よく過ごす。 ・保健的で安全な環境の下、体調の変化に対するきめ細やかな対応により、健康に過ごす。 ・おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。 ・個々に合わせてゆったりとした環境の下で授乳を行い、生理的な欲求が満たされ安心感をもつ。 ・受容的関係の中で、見る・聞く・触るなどの経験を通して、外界を認識し、身体感覚が育つ。

環境構成と配慮	・身体機能が未熟であり病気にかかりやすく、また生命の危険に陥りやすい為、体の急激な変化に対応できるように、一人一人の子どもの状態を十分に観察する。 ・睡眠中の子どもの顔色や呼吸の状態をきめ細かく観察する。（ＳＩＤチェック） 仰向けに寝かせ、正常に呼吸ができるような状態にし、変化を見逃さないようにする。 ・愛情豊かな特定の大人との豊かな関りにより、子どもの様々な欲求を快適に満たし、子どもとの信頼関係を築き、温かい雰囲気の中で過ごせるようにする。 ・生理的機能が未熟なため、保育室の温度や湿度の調整、衣服の調整などをきめ細かく行う。 ・おむつ交換は、スキンシップを図り、不快から快になる心地よさが感じられるようにする。 ・授乳は抱いて語りかけたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりとした気持ちで行う。 一人一人の子どもの哺乳量を考慮して調乳し、哺乳後は必ず排気させいつ乳を防ぐ。 ・明るく心地よさとやすらぎのある空間を整えると共に、外界に対しての認知を促すことができる玩具等を整える。 ・寝具や玩具等の室内用品は、消毒したり日光にあてたりするなど常に清潔に留意する。
家庭との連携	・授乳の内容（母乳かミルクか）を聞き取り、母乳を冷凍保存で使用する場合は細心の注意と綿密な連絡の上で実施していく。 ・２４時間過ごす子どもの生活を視野に入れ、家庭及び所・園での睡眠や授乳の生活リズムをお互いに把握できるように細かく連絡し合う。 ・快適で清潔に生活することができるように、衣服やおむつについては清潔なものを用意してもらう。 ・子育ての情報や所・園での生活を細かく伝え、子どもの成長を共に喜んだり、保護者自身も徐々に所・園に慣れることができるようにしたりする

３か月～６か月頃

発達の主な特徴	・首がすわり左右１８０度首を動かして、追視することができるようになる。 ・うつ伏せから胸を上げることができるようになる。また、仰向けから横向きになり、やがて寝返りができるようになる。 ・手足を伸ばしたり、縮めたりする。 ・物に手を伸ばして握る。（目と手の協応）　手がもみじ状に開くようになる。 ・特定の大人に対して、笑いかけたり泣いたりなどして自分の要求を伝えようとする。 ・あやされると喜び、機嫌のよい時など「あーあー」「うーうー」などの初期の喃語を発するようになる。 ・眠っている時と目覚めている時がはっきりしてきて、生活リズムが確立してくる。 ・１回の授乳の量が増え１日５回程度になる。唇を閉じて飲み、舌先の前後運動と顎の連動運動が可能になる。 ・離乳の開始時期となり、ミルク以外のどろどろ状の物をスプーンから摂取できるようになる。（離乳食１回　授乳４回程度） ・排便が１日２回程度になる。
ねらい	・特定の大人による愛情豊かな受容の下で、心理的欲求が満たされ心地よく生活する。 ・一人一人の子どもの生活リズムを重視して、食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ安心して過ごす。 ・保健的で安全な環境の下で、心地よく生活する。 ・安全で伸び伸びと体を動かせる環境の下で、寝返りや腹ばいなど体を動かそうとする。 ・喃語の音を真似て返したり、優しく語りかけたりし、要求に応じてもらえた喜びを感じる。 ・安心できる環境（人的、物的）の下で、聞く・見る・触れるなどの感覚が芽生える。
内容	・室内外の快適な温度、子どもの健康状態に合わせて衣服を調節してもらい心地よく過ごす。 ・家庭状況や発育状況、健康状態に合わせて離乳食を開始し、ミルク以外の味覚や形状に慣れる。 ・立位で抱かれた状態で屈伸をしたり、腹ばいや寝返りをしたりして、体を動かすことを喜ぶ。 ・赤ちゃん体操やおむつ交換時のマッサージなどを取り入れ、保育者の優しいスキンシップによって、心地良く体を動かす。 ・優しい語りかけや歌いかけ、泣き声や喃語への応答により保育者との関わりを喜ぶ。 ・優しく抱かれながら、きれいな色彩や音の出る遊具に触れて遊ぶことを喜ぶ。

環境構成と配慮	・健康状態を十分観察し、常に看護師との連携を図り、疾病や異常に対して速やかに適切な対応をする。 ・保育室は天候に応じて温度・湿度の調整を行うと共に、一人一人の発育や発達状態、健康状態に応じて情緒の安定が図れるように、室内の色彩やベットの位置などその都度適切に整える。 ・子どもの心地よい体位で遊ばせながら、寝返りや腹ばいの機会をつくるようにする。 ・目覚めている時は個別に抱き上げたり、あやしたり、優しく揺らしたりして、人に対する関心や周囲に対する興味が育つように配慮する。 ・玩具などは素材・大きさ・形・色・音質など子どもの発達状態に応じて、適したものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるものになるよう工夫する。 ・玩具は常に安全で清潔にする。 ・体調や天候をみて、外気に触れる機会をつくる。 ・体調や便の状態をみながら栄養士と連携をとり、無理なく離乳の開始を進めていく。
家庭との連携	・授乳の内容（母乳かミルクか）を聞き取り、母乳を冷凍保存で使用する場合は、細心の注意と綿密に連絡を取り合い実施していく。 ・寝返りやはいはいの準備期であるので、動きやすい衣服を用意してもらう。 ・子どもの２４時間の生活を視野に入れ、睡眠や授乳などの生活リズムが安定するように家庭と所・園とが連携できるように配慮していく。

６か月～９か月頃

発達の主な特徴	・仰向けからうつ伏せ、うつ伏せから仰向けになることができるようになる。 （寝返りの完成） ・うつ伏せの状態で体を上げることができる。（手掌支伏臥位） ・うつ伏せになって後ろに下がったり、腹ばいになり前に進んだりするようになる。 ・脇の下を支えられて足でぴょんぴょんと跳ねるようになる。 ・一人で座ることができるようになる。 ・体が左右に倒れそうになった時、手を伸ばして支える。 ・物をつかみ、持ち換える。（熊手型つかみ） ・人見知りをするようになり、不安や恐れを感じると特定の人に甘え、後追いが始まる。 ・人見知りや警戒心・甘えなどの様々な感情が表れ、嫌な時には強く泣き特定の人に甘える。 ・「バーバー」「アブー」などの喃語を盛んに発する。 ・目覚めている時間が１０時間以上になる。（昼寝３，４回程度） ・舌でつぶせる固さのものを食べることができる。（離乳食２回授乳３回程度） ・便が固くなり、いきむようになる。
ねらい	・保健的で安全な環境の下、心地よく生活する。 ・体の状態をきめ細かく観察してもらい、健康に過ごす。 ・安全で活動しやすい環境の下で、姿勢を変えたりはって移動したりなど十分に体を動かす。 ・様々な味の離乳食を試したり、安心してミルクを飲んだりする。 ・保育者の愛情豊かな受容の下で、スキンシップや優しい関わりを喜ぶ。 ・保育者の優しい語りかけや発声、喃語に応答してもらい、発語の意欲が育つ。 ・聞く・見る・触れるなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を働かそうとする。
内容	・清潔で衛生面に十分配慮された環境の下、一人一人の生活リズムの中で安定感をもち、ゆったりと過ごす。 ・一人一人の子どもの心身の発育や発達の状態を踏まえた対応により、気持ちよく過ごす。 ・おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。 ・安心できる保育者との関わりの下で、離乳食を食べたりミルクを飲んだりして、機嫌よく過ごす。 ・寝返り・はいはい・お座りなどそれぞれの発達に合った体の動きを喜ぶ。 ・保育者の応答的な触れ合いや言葉かけにより、欲求が満たされ安心感をもって過ごす。 ・保育者との関わりの下、優しい語りかけや喃語に応答してもらい、喜びや心地よさを味わう。 ・玩具などを手にもつ・いじる・打ちつけて音を出すなどして楽しむ。

環境構成と配慮	・母体免疫が弱まり感染症にかかりやすくなるので、日々の様子を観察し、変化がある場合には適切に対応する。 ・一人一人の運動発達の表われ方の違いを理解し、楽しんでいる姿勢や移動を十分に経験することができるようにしていく。 ・発達や興味に合わせて安全な環境をつくり、安心して手を伸ばしたり口にしたりできるよう、玩具など点検や消毒に努める。 ・授乳や離乳は、一人一人の子どもの健康状態や食欲に応じて行うと共に、咀嚼や嚥下など一人一人の発達状態を適切に促すことができるように、食品や調理形態等に十分配慮していく。 ・特定の保育者との温かい触れ合いや優しい語り掛けが、子どもの情緒を安定させ、順調な発育や発達を支えることを認識して、子どもにゆったりとした気持ちで接するように心掛け、基本的信頼感を確かなものにする。 ・人見知り、不安、甘え、恐れ、怒りなどの感情の表われ方を理解して、共感し受け入れ、気持ちが安泰できるように接していく。 ・保育者が言葉にならない思いや欲求を発生や喃語から汲み取り、それを言葉に置き換えながら関わることで、安心感や心地よさを感じられるようにする。 ・自分から玩具に向かっていこうとする意欲的な行動が満たされるような環境をつくっていく。 ・外気浴をしながら身の回りの様々なものに触れ、見たり聞いたり手で触れたりなど、感覚の発達が促されるようにする。
家庭との連携	・離乳食を進める大切な時期なので、連絡を密にし無理のない内容で進めることができるよう、食品や調理形態など具体的に連絡し合う。また、新しい食品を摂取したときの便や皮膚の状態などを家庭と連携して観察していくようにする。 ・歯が生え始める時期なので、口の中を清潔にすることに心がけてもらう。 ・寝返りや、ずりばいなど動きが活発になると共に、変化の多い時期なので子どもの小さな変化もできるだけ保護者に伝え、成長の喜びを共感し合うことができるようにする。 ・生活リズムを整え、規則正しい生活と十分な休息を心がけてもらう。

９か月～１２か月頃

発達の主な特徴	・膝と手の平をついて体を上げて四ばいができるようになったり、膝を伸ばして高ばいをしたりするようになる。 ・つかまり立ちから伝い歩きをするようになり、移動運動が活発になる。 ・親指を使って掴むようになる。（母指対向操作） ・相手の言っている言葉と動作や物が結びつく。 ・志向のある喃語（マーマー・ブーブー）を発する。 ・相手の模倣を喜んでするようになる。 ・大人の指差しに反応し行動するなど、自分と大人と第三者（物）との三項関係が形成される。 ・まとめてぐっすり眠ることができるようになる。（午前１回午後１回程度の昼寝） ・歯茎でつぶせる固さの物を食べることができる。（離乳食３回 授乳３回程度） ・便意をもよおすと意識的にいきむようになる。 ・「ちょうだい」「まてまて」など保育者と関わって遊ぶことを楽しむ。
ねらい	・保健的で安全な環境と安定した生活リズムの下、健康に過ごす。 ・安全な環境の下で、体を動かすことを喜び、はいはいやつかまり立ちなどの移動運動を楽しむ。 ・楽しい雰囲気の中で、食べる喜びや楽しさを味わう。 ・自分の欲求を満たしてくれる特定の人に愛着をもち、安心して過ごす。 ・スキンシップやふれあい遊びを楽しみ、よく笑い、人と一緒にいる喜びを味わう。 ・指差しや喃語、片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやりとりを喜ぶ。 ・保育者と一緒に様々なものに触れながら手や指の機能をはたらかせ、豊かな感覚を味わう。
内容	・一人一人の子どもの心身の発育や発達、生活リズムに合わせて心地よく過ごす。 ・お座り・はいはい・つかまり立ち・伝い歩き・立つ・歩くなど、自由に動きながら十分に体を動かす。 ・一人一人の状況に応じた調理形態で、いろいろな食べ物を見たり自分で口に運んだりして喜んで食事をする。 ・一人一人の排尿間隔に合わせておむつを取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 ・生活や遊びの中で保育者のすることに興味をもち、身振りを真似たり、発語を応答したりして楽しむ。 ・つまむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。

環境構成と配慮	・常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常は早く発見していく。 ・発達が進み、新しい行動が可能となると行動範囲が広がるので、身の回りの物などはいつも十分な点検を行い、安全を確認した上で探索意欲を満たして自由に遊べるようにする。 ・この時期は伝い歩きがはじまるが、はうことも十分に経験することができるようにする。 ・一人一人の子どもの甘えなどの欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・一人一人の状態に合わせて食品の種類や量を増やしたり、大きさや固さなどの調理形態を変化させたりして離乳食７～８か月から９～１１か月食へとスムーズに移行することができるようにする。 ・「おいしいね」と優しく共感する保育者の言葉かけの中で、「食べたい」という気持ちが満足できるようにし、食べることが楽しく嬉しい気持ちが膨らむようにする。 ・活動状態や健康状態を考慮しながら、安心できる環境をつくり、必要な午睡が十分できるようにする。
環境構成と配慮	・一人一人の子どもと関わる中で、声や表情、視線に目を見て共感し、期待や楽しさ、様々な思いから発する声や喃語、片言に応え、発語の意欲を育んでいく。 ・子どもが自ら向かって、見たい、触れてみたいと感じられるように玩具類の大きさ・質・形・手触り・色合いなどに変化をもたせたり、創意工夫をしたりして環境を整える。 ・興味を示して自ら関わろうとしている時は見守り、不思議さや楽しさを感じ、表現する姿に対して共感していく。
家庭との連携	・離乳食の具体的な進め方をその都度細かく連絡し、様々な食材に触れる経験ができるように知らせる。 ・歯や口腔内を清潔に保つための具体的な方法を知らせ、習慣化できるように働きかける。 ・這うからつかまり立ち・立つ・歩くなど目覚ましい発達をする変化の多い時である。子どもの小さな変化もできるだけ保護者に伝え、成長の喜びを共感し合えるようにする。

１２か月～１歳３か月頃

発達の主な特徴	・手足を交差して、すばやく四つばいすることが出来るようになる。 ・不安定ながらも自分で立って歩くことができるようになる。特徴として手を上にあげてバランスをとる。 ・足を前に出して、長時間座ることができるようになる。（長座り） ・親指と人差し指の先を使って、物をつまむことができるようになる。 ・「あった」「あっち」など、定位の指差しをしたり音声を発したりする。 ・興味をもった物の傍にいって触ったり、取ったりする。 ・排尿の間隔が次第に長くなる。 ・一日の生活リズムが安定し、午睡が１日１回になってくる。 ・歯茎で噛める固さの物が食べられる。（離乳食３回から次第に乳児食に移行。） ・大人の模倣を盛んに行うようになる。まねっこや「ちょうだい」「どうぞ」などのやりとりをする。
ねらい	・保健的で安全な環境をの下で、快適な環境に心地よさを感じる。 ・はう・立つ・歩くなど一人一人の発達に応じた動きを楽しむ。 ・手づかみや自分でスプーンをもつなど、自分で食べようとする意欲が育つ。 ・身近な人に甘えや欲求を受け止めてもらい、情緒が安定する。 ・指差しや動作に伴う発語を受け止められ、言葉が芽生える。 ・つまんだり、引っ張ったりなど、手先や指先を十分に使って遊ぶ。 ・生活の中で、様々な音、形、色など、見たり感じたりなどの感覚を味わう。
内容	・食べたい、寝たいなどの生理的欲求が満たされ、心地よく生活する。 ・はう・立つ・歩く・よじ登る、くぐるなど、全身を使って遊ぶ。 ・スプーンを使って食べたり、コップで飲んだりすることに慣れていく。 ・保育者や身近な人の行動に関心をもち、簡単な模倣を楽しむ。 ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやりとりを楽しむ。 ・保育者に見守られて、玩具や身の回りのもので一人遊びを十分に行う。 ・つまむ、叩く、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 ・保育者と一緒に草花やきれいな色彩のものを見たり、動物や身近なものが表現されている絵本などを見たりして喜ぶ。
環境構成と配慮	・一人一人の子どもの発育・発達状態を把握し、子どもが興味をもって自分からしてみようとする意欲を大切にしながら温かく見守る。 ・排泄は一人一人の排尿間隔を把握し、おむつが汚れたら優しく言葉をかけながら取り替え、きれいになった心地よさを感じられるようにする。 ・子どもの行動を見守り、満足いくまで時間をとるようにして探索活動などが十分に経験できるようにする。 ・探索活動が活発になると危険を伴う姿が予測されるので、適切な対応ができるように見守り、探索への意欲が知的な発達を育んでいくことを保育者は意識して関わっていく。 ・１対１の言葉かけや絵本を一緒に見るなどして、話したい気持ちが十分に満たされ、発語をさらに促していくことができるようにする。 ・行動が活発になるので、十分な休息がとれるように配慮する。
家庭との連携	・動きが活発になり危険を伴う事が多くなるので、家庭内の安全に配慮してもらう。 ・様々な食材に慣れる大事な時期であるので、栄養士や担任を通じて調理方法　や食べさせ方を知らせていく。

１歳３か月～１歳６か月頃

発達の主な特徴	・手を中間の位置にしてバランスをとって歩く姿から、次第に手をおろして歩くようになる。 ・はう姿勢で階段を登り、後ずさりで降りてくる。 ・「ワンワン」「マンマ」など一語文を話す。 ・大人の質問に対して指差し）をしたり、言われたことをしようとしたりする。 ・自分でしようとする気持ちが芽生える。 ・大人のすることをじっと見たり、真似てみたり、他児の持っている物やしていることに関心をもつようになる。 ・コップを両手に持って、自分で飲もうとする。
ねらい	・食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ・様々な食材や調理形態に慣れ、食べることを喜ぶ。 ・安全で活動しやすい環境の下、様々な動きを楽しむ。 ・安心できる保育者の下、自分以外の人に関心をもち関わろうとする。 ・保育者との応答的な関わりを喜び、言葉が芽生える。 ・身の回りの様々なものに自由に触れて遊び、外界に対する好奇心や関心をもつ。
内容	・食事や午睡、遊びや休息などの生活リズムが安泰する。 ・様々な食材や調理形態に慣れ、咀嚼して飲み込もうとしたり、自分で食べようとしたりする。 ・登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなどの体を動かす遊びや、いじる、たたく、つまむ、転がすなど手や指を使う遊びをする。 ・身近な人との信頼関係の中で、自分の気持ちを表そうとする。 ・表情や身振りでおむつが汚れたことを伝えようとし、交換してもらうことで心地よさを感じる。 ・驚きや満足感などを表しながら、探索を楽しもうとする。
環境構成と配慮	・一人一人の子どもの健康状態や生活リズム、温度や湿度に合わせて、快適に過ごせるようにする。 ・様々な食材や調理形態に慣れることができるように、栄養士と連携をとり、一人一人の子どもの状態に合わせて乳児食へ移行していく。 ・好き嫌いが出てくる時期であるが、励ましたり、褒めたりして少しでも食べようとする意欲をもつことができるようにする。 ・おむつが汚れたときの子どもからのサインを見逃さず、タイミングよく交換する。 ・一人一人の子どもに適した接し方で、安心して眠ることができるようにする。また、目覚めたときは温かい言葉をかけ、必要に応じて衣服を着替えるなど適切な対応をする。 ・戸外に出ることを積極的に取り入れていくが、戸外に出るときには日照や気温などに注意して、帽子や服装に配慮し、子どもの体調に合わせて無理をしないようにする。また、水分補給を適切に行う。 ・保育者へ依存したい気持ちはいつでも温かく受け止め、安心して自己主張をしたり、要求を伝えたりできるようにしていく。 ・探索活動が十分できるような環境を整え、繰り返し触れたり見たり感じたりした満足感や驚きなどを、受け止めていく。また、探索をとおして、物の扱い方や身のこなしを経験できるようにしていく。
家庭との連携	・離乳食が完全に終了し、乳児食へと移行できるように家庭と連携をとって進める。 ・おむつに排尿や排便した時の子どもの様子を見逃さず、早めに交換して心地よく過ごせるようにしてもらう。 ・活動がより活発になり家庭でも誤飲等の事故が発生しないように、注意すべき点などを伝えていく。 ・家庭と所･園での様子を細かく伝え合い、子どもの思いや欲求に丁寧に応えていけるように連携を図っていく

１歳６か月～２歳頃

発達の主な特徴	・斜面や段差のあるところを好んで歩いたり走ったり、少し高いところから跳び降りたりするなど活発に体を動かす。 ・両足を一段ずつ揃えて階段を登り降りするようになる。また、立位からしゃがんで物を拾ったり、遊んだりする。 ・クレヨンなどを持って上下・左右の線を描いて楽しむことから、次第に手首のコントロール力がついて、ぐるぐる丸を描く。 ・尿や便が出たときに知らせたり、時々尿意や便意をしぐさや言葉で伝えたりして、オマルやトイレに座って排泄することもある。 ・乳児食が食べられるようになり、次第に好き嫌いがはっきりしてくる。 ・こぼしながらも自分でスプーンを使って食べようとする。また、コップを両手で持って自分で飲む。 ・自我が芽生えて、「〇〇じゃない〇〇だ」と自主的な決定をするようになる。 ・他児の持っているもの、していることに興味をもち、同じことをしようとする。 ・積み木を３個以上積んだり、入れ分けたりなどができるようになる。 ・一語文の数が増えて形や色の使い分けができるようになり、物と名詞などが一致してくる。次第に二語文を話すようになる。 ・「これは？」「どうして？」などの質問を繰り返すようになる。 ・大人や他児の真似をして楽しむ。（模倣遊び） ・歌や手遊びを喜び、リズムに合わせて体を動かしたり真似をして歌ったり手を動かしたりする。 ・わらべうた遊びや手遊びを喜び、ところどころ真似る。
ねらい	・安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ ・様々な食材や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食べようとする。 ・安心できる保育者との関係の中で食事や排泄・着脱などをとおして、自分でしようとする気持ちが芽生える。 ・行動範囲が広がり、探索活動を楽しみながら身の回りの様々な人に気付いたり、様々なものに触れたりなど興味関心をもつ。 ・保育者の応答的な関わりや話しかけにより、言葉を使う楽しさを感じる。 ・絵本や玩具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。
内容	・保育者の優しい言葉かけと援助により、衣服の着脱に興味関心をもつ。 ・ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする。 ・オマルやトイレに興味をもち、保育者に促されて排泄しようとする。 ・自分でしようとする気持ちを見守り、適切に援助しながら満足感を味わえる経験を積み重ねる。 ・好きな玩具や遊具、自然物に自分から関わり十分に遊ぶ。 ・保育者に見守られて、外遊びや一人遊びを十分に楽しむ。 ・手や指を使う玩具で遊ぶ経験や、道具を使う経験を十分に行う。 ・保育者の声かけに喜んだり、自分から片言で話したりすることを楽しむ。 ・興味のある絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。 ・保育者と一緒に歌ったり、簡単な手遊びをしたり、体を動かしたりして遊ぶ。

環境構成と配慮	・食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、日常の心身の状態を把握しておき、無理なく個別に対応する。 ・排泄はゆったりとした気持ちで対応し、子どもが自分から便座に座ってみようと思うような話し方や接し方をする。 ・歩行の発達に伴い行動範囲が広がり、探索行動が活発になるため、予測できない行動が多くなるので、安全な環境を整えていく。 ・子どもの相互のトラブルが多くなるが、個々の気持ちを受け止め、保育者の優しい語りかけなどにより、お互いの存在に気付くようにする。 ・全身を使うような遊びや手や指を使う遊びでは、子どもの自発的な活動を大切にしながら時には保育者がやってみせるなど、保育者と一緒に楽しんで遊べるようにする。 ・自分でしようとしている時や何かに熱中している時は、温かく見守る。また、子どもの発見や驚きを見逃さず受け止め、好奇心や興味を満たし共感できるようにする。 ・保育者と一緒に絵本を見ながら絵本の内容を動作や言葉で表したり、歌を歌ったりして模倣を楽しめるようにする。
家庭との連携	・食欲や食事の好みに偏りが現れやすい時期なので、家庭での食事の様子をできるだけ細かく把握できるようにする。また、所・園での食事の様子や変化についても細かく知らせる。 ・排泄については、子どもの状況を丁寧に伝え、オマルや便座に座るなど一人一人の状況に応じて進められるようにする。 ・友達とのトラブルが増える時期であるが、重要な発達の現れであることを知らせていく。

１　期	２歳児（第１期）　４月～５月
子どもの姿	・新入児は、保護者と離れることや家庭との生活の違いに慣れるのに時間がかかる。 ・新しい環境に戸惑いながらも好きな遊びを見つけて遊んだり、保育者や同じ場にいる子どもと遊んだりする。 ・保育者や他児に親しみをもち、名前を呼んだり、簡単な挨拶をしたりする。 ・「いや」「自分で」などの自己主張が多くなる。 ・自分の欲求が通らないと泣いたり、怒ったりする。 ・一日の流れが分かり始めると、自分のクラスや持ち物の場所、マークなどを覚えて安心して過ごすようになる。 ・食事の量や好き嫌いには個人差が見られるが、好きなものは自分から食べようとする。 ・戸外で遊ぶことを喜び、砂場で遊んだりダンゴムシを探したりして好きな場所で遊ぶ。
内容	○　新しい保育者や保育室に親しみをもち、安心して過ごす。 ・担任の保育者や新しい友達を覚える。 ・自分の持ち物の場所や靴箱、マークが分かる。 ○　自分の気持ちを言葉や仕草で伝えようとする。 ○　家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと食事をする。 ○　おむつが濡れていない時に、便器に座ってみる。 ○　簡単な衣服の着脱を保育者と一緒にしようとする。 ○　保育者と一緒に手を洗って拭く。 ○　保育者に見守られたり、触れてもらったりしながら、安心して午睡をするようになる。 ○　保育者と一緒に自分の好きな遊びをする。 ・好きな歌を歌ったり、リズムにのって体を動かしたりする。 ・固定遊具や運動遊具などで遊ぶ。 ・走ったり三輪車に乗ったりして遊ぶ。 ・砂遊びをする。 ・身近な自然の中で虫や草花を見たり、触れたりする。 ・絵本、ブロック、積み木、粘土などの好きな遊具や好きな場所で遊ぶ。 ・絵本やパネルシアターを喜んで見る。
行事	・身体計測　・内科健診　・避難訓練　・保護者懇談会　・誕生会（クラス）

ねらい	☆安心できる保育者に不安や欲求を受け止めてもらいながら、安心して過ごす。 ☆保育者と一緒に生活する中で、新しい環境に慣れる。 ☆自分の好きな遊びを保育者と一緒にすることを喜ぶ。
環境構成及び援助と配慮	・　一人一人の甘え・不安・要求を細やかに受け止めて、安心して過ごせるようにし、子どもとの信頼関係を築いていく。 ・　新入児は、同じ保育者が受け入れをするなど一人一人に合わせた対応が行えるように保育者間で共通理解を図り、連携していく。一人一人の家庭状況や発達に配慮し、食事、排泄、午睡などが安心して行えるように、ゆっくりとした生活リズムと雰囲気を心掛け、無理なく新しい環境に慣れていけるようにする。 ・、衣服の調節や室温に十分配慮したり、遊具や玩具の消毒や安全点検をしたりなど、衛生的で安全な環境を整え快適に生活できるようにする。 ☆　自分の持ち物が分かるように、棚や引き出し・靴箱など、身の回りのものを置く場所には個人マークを付けておく。 ☆　一人遊びや少人数で遊べる場を用意して、好きな場所で好きな遊びに取り組めるようにする。 ☆　自分のしたい遊びが見つけられるように、子どもの目線を考えて遊具の設定をしておく。 ☆　自分の物として持ちたがる時期なので、遊具は十分な数を用意しておく。
家庭との連携	・所・園、家庭双方の様子を話し合うことで相互理解を深め、互いに連携して子どもが安心して生活できるようにする。 ・所・園だより・連絡帳・懇談会などを通して、子どもの姿を細やかに伝え、安心してもらうとともに保護者との信頼関係を築いていくようにする。 ・環境が変わるため、心身ともに疲れやすく不安定になることを伝え、家庭でも甘えを受け止め、スキンシップを十分に図ってもらうようにする。
評価	

第　２　期	２歳児（第２期）６月～８月
子どもの姿	・ 生活のリズムが整ってくる。 ・ 遊びたい場所や物をめぐって、自我のぶつかり合いが多くなり、自分の思いを通そうとする。 ・ 保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする気持ちをもつ。（手拭の片付け・手洗い・簡単な着脱など） ・ いろいろな食品に慣れ、自分で食べられるようになるが、同じ食品ばかり食べたがったり、食欲が落ちたりするなど食べ方にむらがある。 ・ 走る・跳ぶなどができるようになり、体を動かすことを喜ぶ。 ・ 絵本やパネルシアターなどの話を喜んで聞き、繰り返しの言葉を喜ぶ。
内容	○ 十分に水分補給や休息をとりながら、梅雨期や夏を健康に過ごす。 ○ 保育者や友達の名前を呼んだり、挨拶をしたりする。 ○ 遊びの中で「貸して」「替わって」「いやよ」など自分の気持ちを伝えようとする。 ○ 遊びやぶつかり合いを通して、自分とは違う友達の思いに触れる。 ○ 楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォークを使って自分で食べようとする。 ○ トイレに興味をもち、促されてトイレに行ったり、便座に座ってみようとしたりする。 ○ 簡単な衣服は一人で脱ぐようになり、手伝ってもらいながら一人で着ようとする。 ○ 顔を拭く・手を洗う・鼻を拭くなど、保育者と一緒にしようとする。 ○ 保育者や友達のしていることに関心をもち、同じ場で遊んだり真似したりする。 ・好きな絵本・紙芝居を繰り返し読んでもらうことを喜ぶ。 ・泥・砂・水に触れながら心地よさを感じる。 ・音楽を聞き、喜んで体を動かしたり、歌ったりする。 ・走る・登る・跳ぶ・押す・引っ張るなど体を動かして遊ぶ。 ・人形やままごと道具などを使って、みたて・つもり遊びをする。 ・保育者や他児と一緒に、身近な動植物を見たり、触れたりする。
行事	・夏祭り　・七夕　・身体計測　・誕生会　・避難訓練　・歯科検診　・保育参観

ねらい	☆安心できる保育者に気持ちを受け止めてもらいながら、安心して生活する。 ☆保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ☆保育者や友達と、同じ場で過ごしたり真似したりすることを喜ぶ。
環境構成及び援助と配慮	・ 梅雨から夏を健康で快適に過ごせるように、室内の温度・湿度・換気に十分注意する。 ・ パラソルや遮光ネットなどで日陰を作り、木陰や日陰で過ごせるようにする。 ・ 一人一人の健康状態に気を配り、水分補給や休息と活動のバランスに配慮する。 ・ 一人一人の子どもの気持ちを十分に受け止めながら保育者との信頼関係を深め、安定して生活ができるようにする。 ・ 自分から話そうとする気持ちを大切にし、優しく受け止めることで保育者に思いを受け止めてもらえた嬉しさが感じられるようにする。 他児への興味が高まり子ども同士のぶつかり合いが多くなるが、成長過程の必要な経験として温かく受け止め、保育者が仲立ちとなっていく。 ・ 食事は、量を加減し、食べられたという満足感が得られるようにする。 ・ 排泄の自立には個人差があるので、一人一人の状況に合わせて進めていく。 ・ 身の回りのことを自分でしようとする気持ちを大切にしながら、一人一人に合わせて見守りや励まし、手を添えるなどの援助をしていく。 ・ 砂や泥遊びや水遊びに興味がもてるように、砂場遊具やジョウロ・空き容器などは十分に用意する。 ・ みたて・つもり遊びのイメージが豊かになるように環境を整え、保育者も一緒に関わっていく。 ・ 身近な動植物を見たり、触れたりして、驚きや感動などの体験を豊かにしていく。
家庭との連携	・ 言葉の発達は個人差が著しいので、あせらず楽しい雰囲気の中で親子のやり取りができるようにしてもらう。 ・ 体調を崩しやすい時期なので、毎日の健康状態を健康チェック表や連絡帳に記入してもらいこまめに連絡し合う。 ・ 排泄面は個人差が大きいので、一人一人に合わせて無理なくパンツに移行できるよう、話し合いながら進めていく。 ・ 保育参観などを通して、所・園での様子を伝えたり、見てもらったりしながら、子どもの成長を共感し合う。
評価	

第　３　期	２歳児（第３期）９月～１０月
子どもの姿	・保育者に見守られ、簡単な身の回りのことが自分でできるようになってくる。 ・気の合った友達と一緒に遊びたがる。 ・高い所に上がったり、飛び降りたりなど、体を動かして遊ぶことを喜ぶ。 ・模倣遊びをする中で、言葉のやり取りが増える。 ・好奇心旺盛で「これなに」と何でも聞くことが増える。 ・日常生活で必要な簡単な言葉を理解し、自分の意志や要求を簡単な言葉や仕草で伝えようとする。 ・「いらない」「ちょうだい」などを言葉で伝えようとする。
内容	○ ゆったりとした雰囲気の中で、食べる喜びや楽しさを感じる。 ○ 言葉や動作で尿意、便意を伝えようとする。 保育者の促しや見守りの中で、トイレで排泄しようとする。 ・女児は排尿後の始末を保育者に手伝ってもらいながらしようとする。 ○ 保育者にできないところを助けてもらいながら、自分で着脱しようとする。 ○ 保育者や同じ場にいる友達と一緒に遊ぶ。 ・積み木、ブロックなど、作ったものに命名しながら遊ぶ。 ・保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・玩具を身の回りの道具にみたてたり、身近な人や動物になったつもりで遊んだりする。 ○ 保育者と一緒に体を動かして遊ぶ。 ・走る・跳ぶ・登る・くぐる・跳び降りるなど、体を動かして遊ぶ。 ・保育者や同じクラスの子どもと一緒に簡単な歌を歌ったり、体を動かしたり、動物などの表現遊びをしたりすることを喜ぶ。 ・身近な素材や玩具で、つまむ・丸める・破るなどして手指を使って遊ぶ。 ○ 自然の変化を感じたり、木の実や木の葉に触れたりして遊ぶ。
行事	・運動会ごっこ　・誕生会（クラス）　・避難訓練　・身体計測　・内科健診

ねらい	☆保育者に見守ってもらいながら簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ☆保育者の仲立ちのもと、保育者や友達と一緒に好きな遊びを楽しむ。 ☆秋の自然を見たり触れたりすることを喜ぶ。
環境構成及び援助と配慮	・ 一人一人の子どもの欲求を満たし、情緒の安定を図っていく。 ・ 食事を楽しむ中で、スプーンやフォークの正しい持ち方を知らせていく。 ・ 一人一人の子どもの自分でしようとする気持ちを大切にし、必要に応じて援助していく。 ・ 午睡など適切に休息をとり、心身の疲れを癒せるようにする。 ・ みたて・つもり遊びでの中で、電話や食べ物など子どもにとって真似しやすい仕草を取り入れて、保育者も一緒に遊びながら子どもなりのみたてや表現に共感していく。また、他の子どもと一緒に遊ぶ楽しさを体験できるよう仲立ちしていく。 ・ 活発に体を動かすことができるよう、遊具の設定の方法など工夫して、体を動かすことの楽しさが感じられるようにする。 ・ 子どもの言葉に耳を傾け、応答的にやり取りを重ねていき、子どもが自分の気持ちを伝えようとする意欲を育んでいく。 ・ 生活や遊びの中で、同じ興味のあるものを介して友達との関わりが広がるように、子どもの気持ちを代弁したり、更にやり取りが引き出されるような応答をしたりして仲立ちとなっていく。 ・ つまむ・丸める・破る・貼る・めくるなどの活動ができるように素材を用意し、少人数で取り組むことができる環境をつくる。 ・ 秋の自然に触れることができるような散歩コースを考え、十分に自然に触れることができるようにする。 ・ 季節の移り変わりを感じる機会をもち、子どもたちの驚き、発見、喜びに共感していく。
家庭との連携	・自我の芽生えや自己主張をどう受け止めるかなど、心の発達について共通理解をしていく。 ・日中と朝夕の温度差が大きいため、調節できる衣服を準備してもらう。 ・言葉の発達には個人差があるので、話を十分聞いてあげ、簡単な言葉のやり取りを大切にしていくことを伝える。
評価	

第　４　期	２歳児（第４期）１１月～１２月
子どもの姿	・簡単な身の回りのことは、時々甘えながらも自分でできるようになってくる。 ・自分から尿意や便意を伝え、トイレに行く子どもが増えているが、寒くなり間に合わず失敗する子どももいる。 ・手・足・全身の協応動作が巧みさを増し、力もついてきている。 ・玩具の取り合いや双方の思いがぶつかり合う姿が多くなるが、機嫌よく友達と一緒に遊ぶ姿も多く見られる。 ・イメージを（みたて・つもり）する事ができるようになる。
内容	○　食器の扱いが上手になり、こぼすことが少なくなる。 ○　自分で尿意を感じてトイレに行こうとしたり、不快感を知らせて取り替えたりする。 ○　簡単な衣服は、一人で着脱しようとする。 ○　ぶくぶくうがいのやり方を知り、しようとする。 ○　保育者とみたて・つもり遊びを楽しむ。 ・自分なりにみたてたり、好きなものになったつもりで遊んだりする。 ○　気の合った友達と、ままごとやブロックなどで一緒に遊ぶ。 ○　絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり模倣をしたりして遊ぶ。 ○　保育者と一緒に自然物やいろいろな素材に触れたり使ったりする。 ○　いろいろな遊具を使って、ぶら下がる・登る・押す・引くなどの全身を使った遊びを楽しむ。 ○　保育者や友達と一緒に歌ったり、踊ったりすることを楽しむ。 ○　追いかけっこ遊びやリズミカルな歌や言葉のやり取りを楽しむ。 ○　積み木やブロックなど、手指を使う遊具で遊ぶ。
行事	・身体計測　・避難訓練　・誕生会（クラス）　・歯科健診　・お楽しみ会

ねらい	☆簡単な身の回りのことが、自分でできる嬉しさを感じる。 ☆保育者や友達と一緒に、みたて・つもり遊びを楽しむ。 ☆保育者や友達と一緒に体を使った遊びを楽しむ。
環境構成及び援助と配慮	・ 遊びや生活の中で、子どもの「～したい」という思いをしっかりと受け止めながら、思いを言葉で返したり、思いに寄り添ったりしながら情緒の安定を図っていく。 ・ 簡単な身の回りのことを自分でしようとする姿を認めたり励ましたりしながら、自分でできるようになってきた喜びに共感していく。 ・ 簡単な身の回りの始末ができるよう、環境の見直しをする。 ・ 寒さに向かう時期なので、衣服の調節を行い、できるだけ薄着の習慣をつけたり、うがいのやり方を知らせたりしながら健康に過ごせるようにする。 ☆ みたて・つもり遊び等をする中で、やり取りの楽しさを味わえるよう保育者が相手役となって、子どものイメージを仲介していく。 ・ 子どもが見つけた遊びを認めながら、遊びが広がっていくように適切な援助をしていく。 ・ 子ども同士の言葉のやり取りを大切に受け止めながら、うまく表現ができないところは、適切な言葉を足したり、代弁したりする。 ・ 子どもが「これなに」と何度も質問したり、聞いたりしてきた時は、丁寧に応えるようにする。 ☆ 絵本や紙芝居など子どもが興味・関心をもって言葉に親しむことのできる環境を整える。また、それらを繰り返し読みながら話の展開や言葉の響きなどがもつ面白さを子どもと一緒に楽しみ、言葉の感覚や語彙を豊かにするとともに子どものイメージの世界を広げていく。 ☆ 秋の自然に触れる機会をもち、自然物やいろいろな素材を取り入れた遊びや制作に取り組めるようにする。 ☆ 保育者が一緒に体を動かしたり、必要な援助をしたりしながら、体を動かす楽しさが感じられるようにする。 ☆ 積み木やブロックなど指先を使った遊びは、少人数で落ちついて遊べるようにコーナーを設けていく。 ☆ ボタンはめ、紐とおし、センタクバサミなど手や指先の力を調節しながら子どもが自分なりの発想や工夫で楽しめるものを用意していく。
家庭との連携	・冬を健康に過ごすために、できるだけ薄着で過ごすことや手洗い・うがいが大切であることを伝えていく。 ・簡単な身の回りのことが自分でできる様子を伝え、子どもの成長を共に喜ぶとともに家庭でもなるべく見守ってもらいながら、無理なく進められるようにしていく。
評価	

第　５　期	２歳児（第５期）１月～３月
子どもの姿	・自分の意志や要求を、簡単な言葉で伝えられるようになる。 ・友達との関わりが活発になり、保育者の仲立ちのもと気の合う友達とみたて・つもり遊びを楽しむようになる。その一方、遊びの中でまだ相手の気持ちに気付けなかったり、所有の意識が不確かだったりするため、物の取り合いになることもある。 ・簡単な歌を歌ったりリズムに合わせて体を動かしたり、動物などになりきったりして遊ぶことを楽しむ。
内容	○　エプロンを使わずに自分でスプーンを使って食べられるようになる。 ○　自分からトイレに行こうとする。 ○　簡単な衣服の着脱ができるようになり、保育者と一緒に裏返しや前後を直そうとする。 ○　ぶくぶくうがいやがらがらうがいを、行おうとする。 ○　自分でできるようになったことや大きくなった喜びを感じる。 ○　保育者や友達と一緒にみたて・つもり遊びを楽しむ。 ・保育者や友達と、気に入った絵本や紙芝居のストーリーを再現して遊ぶことを喜ぶ。 （３匹のこぶた・３匹のやぎのがらがらどん・大きなかぶなど） ・繰り返しの言葉や楽しいやり取りの出てくるお話を喜ぶ。 ○　生活に必要な簡単な言葉がだいたい分かり、したい事、して欲しい事などを相手に言葉で伝えようとする。 ○　保育者と一緒にわらべうた遊びや追いかけっこなど、体を動かして遊ぶ。 ○　雪・氷・霜柱など、冬の自然を見たり、触れたりして遊ぶ。 ○　３歳児保育室で遊ぶ。
行事	・お楽しみ会　・誕生会（クラス）　・避難訓練　・保育参加　・懇談会 ・内科健診　・身体計測

ねらい	☆簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ☆保育者や友達と一緒にみたて・つもり遊びをする中で、簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ☆保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを喜び、繰り返し楽しむ。
環境構成及び援助と配慮	・　生活面では一人一人の姿を再確認し、自分で行おうとする姿を見守り、必要に応じて援助したり、できたことを一緒に喜んだりしていく。 ・　落ち着いて食事ができるように、席次の配慮をし、マナーを知らせていく。 ・　一人で尿意を感じてトイレに行くことができたり、身の回りのことができたりした時には、十分に認め、自信やもたせると共に、次への意欲へとつなげていく。 ・　感染症の早期発見や予防に努め、健康に過ごせるようにする。 ・　みたて・つもり遊びを繰り返し楽しみ、遊びが広がっていくように子どもの発想によって何にでもみたてられるもの（チェーンリング、花はじき、積み木、ハンカチ、ペットボトルなど）を十分に用意していく。 ・　子どもが体験したことや絵本などで興味をもったことへの再現遊びが広がっていくように、遊びのイメージを支える小道具を用意し、保育者も一緒に遊び込みながら想像が膨らむような言葉掛けややり取りをしたりして楽しさを伝えていく。 ・　子どもの言葉や発想を丁寧に受け止め、返していくことで、子どもが言葉を使って遊ぶことの楽しさを感じ、言葉を豊かにしていけるようにする。 ・　物の取り合いの時には、双方の子どもの思いを察しつつ、それを聞き出しながら共感して受け止めたり、相手の思いを伝えたりし、言葉による気持ちの伝え合いの芽生えを大切にしていく。 ・　寒さの中でも戸外で元気に遊べるように、追いかけっこや、わらべうた遊びなどの体を動かす遊びを取り入れ、保育者や友達と触れ合いや関わって遊ぶ楽しさが感じられるようにする。 ・　幼児との触れ合いや幼児組の保育室で過ごす機会を取り入れていき、進級に向けて新しい環境に慣れていけるようにする。 ・　冬の自然に触れる機会をもち、子どもの驚きや喜びに共感していく。 ・
家庭との連携	・一年間の子どもの成長した姿を伝え合い、成長の喜びを共有する。 ・幼児組の生活を知らせ、安心して進級できるようにする。 ・自己主張する姿を認めながら、気持ちの切り替えにつながる援助方法について情報交換し、家庭との連携を図る。 ・感染症や疾病などの早期発見、適切な対応を心がけ、子どもの体調の変化を伝え合うようにする。
評価	

第　６　期	３歳児（第１期）４月～５月
子どもの姿	・新入児は、保護者と離れることへの不安を感じ、したいことやしてほしいこと、思ったことなどを言葉で十分に表現できず、表情や態度で表す姿が見られる。 ・進級時は進級した喜びで気持ちが弾んでいる反面、環境が変わり、更に新しい友達が増えたことによって落ち着かない様子が見られる。 ・進級児は進級した喜びで気持ちが弾んでいる反面、環境が変わり、更に新しい友達が増えたことによって落ち着かない様子が見られる。 ・所・園での生活（手洗い・所持品の始末など）や環境の変化に戸惑いが見られる。 ・保育者がいる中で、一人遊びをしたり、並行遊びをしたり、時には友達と触れ合いながら遊んだりする。 ・入園や進級を喜び、自分のクラスやマークが分かり、保育者と一緒に所持品の始末をする。
内容	○　クラスの担任や友達が分かり、親しみをもつ。 ・保育者との触れ合いを通して、所・園生活に少しずつ慣れる。 ・保育者の側にいたり一緒に遊んでもらったりすることで安定する。 ・保育者や友達と一緒に遊ぶ。 ○　保育者の手助けにより、食事・排泄・手洗いなど基本的な生活の仕方を知る。 ・身の回りのことを保育者と一緒に行おうとする。 ・自分の印（マーク）を知り、自分の所持品の置き場所が分かる。 ・友達や保育者と一緒に食事をする。 ・尿意を感じて自分からトイレに行こうとする。 ・遊んだ後の片付けを保育者と一緒にする。 ○　毎日の生活の中で簡単な挨拶をする。 ○　好きな遊びを楽しむ。（ままごと・砂遊び・積み木・ブロック・粘土など） ○　保育者や少人数の友達と一緒に追いかけっこなどをする。 ○　保育者に絵本を読んでもらったり、友達と一緒に紙芝居を見たり話を聞いたりする。 ○　音楽に親しみ、聴いたり・歌ったり・体を動かしたりする。 ○　固定遊具や砂場・三輪車などの遊具の使い方や遊び方を知る。 ○　飼育物や虫・植物の様子に興味をもつ。
行事	・始業式　・入園式　・内科検診　・保護者懇談会　・誕生会（クラス） ・身体計測　・避難訓練　・健康教育　・保健教育　・栄養教育

ねらい	☆ 保育者に自分の気持ちや欲求を受け止めてもらいながら安心して過ごす。 ☆ 所・園生活の流れや簡単な身の回りのことを、保育者と一緒にしようとする。 ☆ 保育者や友達に親しみをもち、新しい環境に慣れる。
環境構成及び援助と配慮	・ 子どもの気持ちを温かく受け入れ、優しく言葉掛けをするなど保育者と一緒にいることで、安心できるような関係をつくる。 ・ これまでの生活内容や時間の違いを考慮し、一人一人の生活リズムを保証することで、無理なく所・園生活に慣れていけるようにする。また、初めて集団生活を経験する子どもがいることや、月齢差があることを踏まえて、少人数に分かれたり、保育者間で連携を図ったりしながら個々に対応した配慮をしていく。 ・ 不安で泣いたり、保育室に入れなかったりする場合は、保育者間で連携・分担をし、子どもの気持ちに寄り添いながら所・園生活に慣れるようにする。 ・ 環境が変わり、心身ともに疲れやすい時期なので一人一人の子どもの健康状態や情緒の安定に考慮した保育内容や活動の組み立て方の工夫をしていく。 ・ 食事は摂取量に個人差が生じ偏食が出やすいので、一人一人の心身の状態に応じて量を加減するなど、無理なく楽しく食事がとれるようにする。 ☆ 自分の場所が分かるように靴箱やロッカーなどに印（マーク）を付け、安心して持ち物の整理ができるようにする。継続児は乳児の時と同じマークを使用する。 ☆ 一人一人が自分のしたいことを安心して十分に楽しめるように発達にあった遊具を十分用意し、保育者と触れ合える時間や場を保障する。 ☆ 好きな遊びを見つけられるように一緒に遊んだり、遊びに目を向けられるように誘ったりする。 ☆ 生活の仕方や必要なきまりを丁寧に伝えていく。 ☆ 新入児だけでなく、進級児の不安も受け止め、これまで好んで遊んできた活動が続くような生活や遊びの環境を整える。
家庭との連携	・環境の変化により心身の疲れが出やすい時期なので、一日の様子をできるだけ丁寧に知らせ、家庭でゆったり過ごすことができるように伝える。 ・懇談会や送迎時に、子どもの様子を伝えるとともに家庭での様子を聞き、保護者の気持ちを受け止めながら信頼関係を築いていく。 ・トイレトレーニングの状況や排泄のタイミングなど、個別に保護者と確認しながら進めていく。
評価	

第　７　期	３歳児（第２期）６月～８月
子どもの姿	・ 保育者に親しみをもつことで情緒が安定し、一人一人の表情が和らぐ。保育者に甘えたり、困ったことなどを伝えようとしたりする。 ・ 同じ場で遊んだり一緒に生活したりする中で、次第に周囲の友達に目を向けるようになる。 ・ 所・園での生活の仕方が分かり始め、毎日繰り返されること（排便・食事の準備・片付け・身仕度など）については、個人差はあるが自分でしようとする気持ちが見られる。 ・ 遊具や遊び場の取り合いや自分の思いが伝えられないなど、友達とぶつかり合うことが多くなる。 ・ 生活の中の様々な出来事などを模倣したりみたてたりし、ごっこ遊びの中で再現するようになる。
内容	○　保育者に親しみをもち安心して生活する。 ○　着脱や衣服・排泄の後始末を自分でしようとする。 ・　手順を知ったり、できないところを手伝ってもらったりしながら、自分で身の回りの始末をしようとする。 ○　好きなものを進んで食べる。また、スプーンやフォークを使って食べる。 ○　保育者や友達にしたいことやしてほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりするなど、生活に必要な言葉を使う。 ○　保育者や友達と戸外で体を動かすことを楽しむ。 ・追いかけっこ、わらべ歌遊びなどを保育者や数人の友達と一緒にする。 ・走る・跳ぶ・登る・押すなど、全身を使う運動遊びをする。 ・いろいろな音や動きに関心をもち、歌ったり体を動かしたり踊ったりする。 ○　遊具や用具に興味を示し、自分の好きなものを見つけて遊ぶ。 ・様々な素材や用具を使って、好きなようにかいたりつくったりして遊ぶ。 ○　自分と同じ遊びをしている友達に関心をもったり一緒に遊んだりする。 ○　物を何かにみたてたり、何かになりきったりしてごっこ遊びをする。 ○　水・砂・泥などの自然に触れ、夏の遊びを十分に楽しむ。 ・草花や野菜の種まき、苗植えなどの様子に興味をもつ。
行事	・七夕（笹もやし）　・誕生会（クラス）　・避難訓練　・身体計測　・保育参観 ・歯科検診　・個人面談　・夏祭り　・終業式 ・健康教育　・保健教育　・栄養教育

ねらい	☆ 所・園での生活の仕方が分かり、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ☆ 保育者や友達のしていることに関心をもち、同じことをしようとする。 ☆ 夏の自然や遊びを楽しみ、水や砂や泥などの心地良さを味わう。
環境構成及び援助と配慮	・ 食事・睡眠・休息・衣服の調節などの欲求が適切に満たされ、快適に生活できるようにする。 ・ 梅雨期や夏季の環境、保健に留意して、一人一人の健康状態の把握や心身の疲労を緩和するよう配慮する。 ・ 気温の変化や一人一人の体調に応じて、衣服の調節を促していく。 ・ 自分で身の回りのことをしようとする気持ちを受け止め、できた時は共に喜んだり、励ましたりしていく。 ・ 一人一人の状況に合わせて言葉をかけ、排泄の自立に向けていく。 ☆ 衣服の着脱や身支度など様々な場面で一人一人の取り組む姿を把握し、励ましの言葉かけや手を添えるなどの援助をしたり、手順が思い出せるような言葉かけや絵表示の提示をしたりしていき、自分で行おうとする気持ちにつなげていく。 ☆ 戸外の遊具や砂場を安全に整備し、遊び方について知らせ、保育者の見守りの中で取り組めるようにする。 ☆ 友達と同じ場でごっこ遊びが楽しくなるようにコーナーをつくり、用具を整えておく。 ☆ 友達とのトラブルが見られるようになるので、思いをしっかり出し合えるように一人一人の思いを大切に受け止めたり代弁したりする。 ☆ 気温に合わせて水や砂・泥遊びができるように、場や遊具などを整え、感触や心地良さを味わいながら遊べるようにしていく。 ☆ 季節に合った花や野菜の種まきや苗植えを見たり、保育者と一緒に水やりしたりすることで自然に興味がもてるようにする。 ☆ 長期休業になると、それぞれの生活習慣が異なることから、共通する留意事項について保育者間で共通理解を図る。
家庭との連携	・所・園の生活の中で、身の回りのことを自分でしている姿を伝え、家庭でも自分でしようとする姿を認めていくように伝える。 ・水遊びの際は、健康状態を細かく連絡し合う。 ・保育参観や個人面談を通して、所・園の生活の様子を伝えたり、成長を喜び合ったりする。 ・長期期間中の過ごし方について留意点を説明し、共通理解を図る。 ・短時間児の中には、長期休みに入る子どももいることから、家庭で引き続き意識してほしいことなどを手紙などで伝える。
評価	

第　８　期	３歳児（第３期）９月～１０月
子どもの姿	・長期休みや夏季保育明けで環境の変化から不安を示す子どももいるが、張り切って登所・登園して、保育者や友達との再会を喜ぶ姿も見られる。 ・友達と同じ場で好きな遊びを繰り返して遊ぶことを楽しむが、自分の思いを通そうとしてトラブルが起こることがある。 ・遊びの中で、気の合う友達や興味ある物を介して言葉のやり取りができるようになり、一緒に遊ぼうとする姿が増える。 ・所・園での生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でしようとする。 ・走る・跳ぶなど、喜んで体を動かす。 ・友達との関わりを楽しむ中で、思ったことや感じたことを自分なりに言葉で伝えようとしたり会話や遊びが活発になったりする。
内容	○　手洗い・うがい・衣服の着脱・排便など、自分でしようとする。 ・保育者の言葉かけで、手順や流れを思い出して行おうとする。 ・保育者と一緒に休息や水分補給をとりながら、健康に過ごす。 ○　物の場所や安全な使い方が分かり、気を付けて遊ぼうとする。 ○　友達や保育者と関わって遊んだり、同じことをしてみたりすることを楽しむ。 ・保育者や友達に親しみをもって挨拶をしたり会話をしたりする。 ・遊びや会話の中で保育者や友達との簡単なやり取りを楽しむ。 ・自分の思いを自分なりの言葉や動きで表そうとする。 ・異年齢児の遊びに興味をもち、真似ようとする。 ○　物を何かにみたてたり何かになりきったりして、ごっこ遊びをする。 ○　保育者や友達と体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。 ・固定遊具・ボール遊び・巧技台・縄遊び・三輪車などを使って体を動かす。 ・保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。 （むっくりくまさん、・かけっこ・玉入れなど） ・体操や踊りなど、リズムに合わせて体を動かす。 ○　運動会など所・園の行事に喜んで参加する。 ○　散歩や所・園庭など身近な自然に親しみ、自然物を使っていろいろな遊びをする。 ・バッタやトンボなどの虫を探したり、見たり触れたりする。 ・草花の種を見つけたり、水やりをしたりする。
行事	・始業式　・運動会　・誕生会（クラス）　・避難訓練　・身体計測 ・健康教育　・保健教育　・栄養教育

ねらい	☆ 所・園生活のリズムを取り戻し、身の回りのことを自分でしようとする。 ☆ 保育者や友達の真似や身近な人との関わりを楽しむ。 ☆ 秋の自然に興味や関心をもち、自分から関わろうとする。
環境構成及び援助と配慮	・ 一人一人の様子をよく見ながら生活のリズムが取り戻せるようにし、安心して過ごせるように、保育者が丁寧に関わっていく。健康状態を十分把握する。 ・ 所持品の始末や衣服の着脱など、自分で行えるよう絵表示などを用いながら一人一人に応じた言葉かけや援助をしていく。 ・ 気候に応じて衣服の調整や水分補給をしたり、休息を十分にとったりする。 ・ 遊具の場所や約束事などを思い出し、安全に遊べるよう子どもたちと確認をしていく。 ・ 子どもの気持ちを十分に受け止め、自分なりの言葉で思いを表現できるようにする。 ☆ 友達と同じ場所で遊んだり、遊具を一緒に使ったりできるように仲立ちしていく。 ☆ 全身を使って遊ぶ楽しさが味わえるように、場所や遊具を用意するとともに、安全に十分に配慮をしていく。 ☆ 簡単なルールのある遊びは、保育者が一緒に行いながら楽しさを感じられるようにする。 ☆ 物や場の取り合いなどのトラブルが多くなってくるので、一人一人の思いや気持ちを十分に受け止めたり、伝えたりしていく。 ☆ 異年齢児との交流の場を意図的につくり、関心がもてるようにするとともに、子どもの発達に応じた交流の場を設けていく。 ☆ 所・園庭や近隣の公園など様々な場所で、自然に触れることを楽しめるようにする。 ・見たり触ったり、味わったりするなど、秋の自然に十分触れられる機会をつくり、その中で子どもの発見や驚きに共感していく。
家庭との連携	・日頃の行事に向けた取り組みの様子を伝え、協力や理解を得ることができるようにする。 ・活動量が増える時期であるので、早く寝ることや十分に休息をとるよう伝えていく。 ・所・園で楽しんでいる秋の自然に関わる遊びや散歩コースで、紅葉や木の実を拾える場所などをクラスだよりや壁新聞などで知らせ、家庭でも自然に親しむと共に親子の関わりにつなげてもらう。
評価	

第　９　期	３歳児（第４期）１１月～１２月
子どもの姿	・身の回りのことが自分でできるようになってくる。 ・自分の好きな遊びを継続して遊んだり、自分から友達の遊びに入ろうとしたりする。 ・遊びの中で友達と交わす言葉も多くなり、一緒に遊ぶ楽しさが分かる。 ・５歳児や４歳児の遊んでいる姿に興味・関心をもち、同じことをしたがったり一緒に行動したがったりする。 ・体を動かすことを喜び、目標に向かって走ったり、高さのあるところから跳んだりなどの遊びを好んで行う。 ・自然物を見つけて拾い集めたり、ごっこ遊びや制作遊びに取り入れて遊んだりすることを楽しむ。
内容	○　冬を健康に過ごすために必要な習慣を知る。 ・手洗いやうがいを丁寧にしようとする、戸外に出る時は上着を着る、など。 ○　生活の仕方が分かり、所持品の始末や給食の片付けなどを自分で行おうとする。 ・歯磨きの仕方が分かり、保育者に見守られながら自分でしようとする。 ○　友達と体を動かす遊びを楽しむ。 ・ボール・巧技台・固定遊具・フープなどを利用した遊びを楽しむ。 ○　秋や冬の自然に触れる。 ・木の葉や木の実などの自然物の色や形などに興味をもち、分けたり集めたりする。 ・制作やごっこ遊びなど、自然物を使った遊びを楽しむ。 ・ハサミや糊、クレヨンなどを使って、つくることやかくことを楽しむ。 ○　お楽しみ会や餅つきなど、所・園の行事に興味をもち、喜んで参加する。 ○　歌ったり、踊ったり、楽器を鳴らしたりすることを喜ぶ。 ・カスタネットや鈴、手作り楽器などで遊び、自由に鳴らして遊ぶ。 ○　見たり聞いたりしたことや自分の経験したことを簡単なごっこ遊びにして楽しむ。 ○　自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを自分なりの言葉や動きで保育者に伝えようとする。 ○　異年齢児の遊びに興味をもち真似ることを楽しむ。
行事	・お楽しみ会　・誕生会　・避難訓練　・身体計測　・もちつき ・個人面談　・終業式 ・健康教育　・保健教育　・栄養教育

ねらい	☆　保育者の言葉かけにより、身の回りのことを自分でする。 ☆　友達と同じ遊びをすることを楽しむ。 ☆　いろいろな表現を友達や保育者と一緒に楽しむ。
環境構成及び援助と配慮	・　子どもの健康状態を把握し、季節の変化に応じて生活環境を整える。 ・　手洗いやうがいの仕方を丁寧に知らせ、保育者が一緒に行うことで習慣づくようにする。 ・　保育者と一緒に気温の変化などに合わせて衣服を調整できるよう知らせていく。 ・　生活の仕方が分かり、自分で行おうとする姿を十分に認め、自信につながるようにする。 ☆　季節の変化に気付いたり、自然に触れたりする機会を多くもてるように、戸外遊びや散歩を十分楽しんでいく。また、その中で子どもたちの発見や感動を大切にし、共感していく。 ☆　秋の自然物に興味がもてるような声かけや絵本などの活用、保育環境づくりなどを行ったり、制作やままごと遊びに取り入れたりしていく。 ☆　遊びに必要な物をつくったり、かいたりできる素材を用意し、必要に応じて使い方を知らせていく。 ☆　戸外に出て体を動かすことが、十分にできるような時間を保障していく。 ☆　様々な遊具で思い切り体を動かして遊ぶことができる環境を設定し、保育者の動きを見ながら遊び方を知ったり、様々な動きを楽しんだりできるようにしていく。また、遊びながら安全な遊び方や順番なども経験できるようにする。 ☆　子どもが保育者に伝えたり言おうとしたりすることを受け止め、話す喜びが感じられるようにする。 ☆　子どもなりのイメージ（みたて）や言葉・動き・造形遊びなど、一人一人の表現の仕方を大切に受け止め、表現する喜びが味わえるようにする。 ☆　５歳児や４歳児の活動の真似が繰り返しできるよう、必要な用具を準備したり環境を整えたりしていく。
家庭との連携	・様々な行事や遊びを通して子どもたちが大きく成長していることを伝え、共に喜び合えるようにする。 ・朝夕の気温の変化が大きいことや運動量の多い時期であるため、体調の把握や睡眠時間について留意するよう伝える。 ・気温や活動量に合わせて、調節しやすい衣服を用意してもらう。
評価	

第　１０　期	３歳児（第５期）１月～３月
子どもの姿	・所・園生活の仕方が分かり、身の回りのことなど自分で行おうとする。 ・仲のよい友達と一緒に過ごすことを楽しみ、自分なりのイメージをもって遊ぼうとする。 ・異年齢児の遊びに興味をもって、真似たり友達と関わって遊んだりするようになる。 ・遊びや生活の中での会話が多くなり、自分の気持ちを言葉で表現しようとする。 ・トラブルが多くなるが、保育者の仲立ちで相手の気持ちに気付けるようになる。 ・簡単な形をかく、切る、歌う、曲に合わせて動くなど、様々な表現活動を楽しむようになる。
内容	○　大きくなった喜びや、進級する嬉しさを感じる。 ○　身の回りの始末や遊びの後の片付けなどがだいたい自分でできるようになり、安定した所・園生活を送る。 ○　冬を健康に過ごすために必要な習慣を知り、保育者と一緒に行おうとする。 ○　食事のマナーが身に付いていく。 ・スプーンを正しく持つことができるようになる。 ○　保育者の手伝いや自分のしたいことを喜んで行う。 ○　活動的な遊びを十分にし、元気よく過ごす。 ・友達や保育者と一緒に鬼ごっこやかけっこなどに繰り返し取り組み、体を十分に動かすことを楽しむ。 ○　簡単なルールのある遊びを保育者や友達と楽しむ。 ・鬼ごっこやかるたなど簡単なルールのある遊びをする。 ○　異年齢児の遊びに興味をもち、真似をしたり一緒に遊んだりすることを楽しむ。 ○　友達や保育者と一緒に簡単な劇ごっこや表現遊びを楽しむ。 ・友達や保育者と一緒に歌ったり、楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 ・劇遊びに必要なお面や小道具をつくる。 ○　自分のイメージをもちながら、友達と同じ遊びをすることを楽しむ。 ○　遊びに必要な物をつくったり、それを使ったりして楽しむ。 ・こまやたこをつくるなどして正月遊びを楽しむ。 ○　好きな絵本や紙芝居など大筋が分かり楽しんで聞く。 ○　冬から春の自然に興味をもち、見たり触れたりすることを楽しむ。 ・雪や霜・陽だまりや木々の芽吹きなど自然に触れて楽しむ。 ○　自分のしたいことや思ったこと、感じたことなどを、言葉で伝えようとする。
行事	・始業式　・生活発表会　・節分　・ひなまつり　・お別れ会 ・身体計測　・誕生会　・避難訓練　・修了式 ・健康教育　・保健教育　・栄養教育

ねらい	☆大きくなったことを保育者と一緒に喜び、進級に期待をもつ。 ☆友達と身近な遊具や用具を使い、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ☆生活や遊びの中で、自分の思いを言葉で表現しようとする。
環境構成及び援助と配慮	・　保育者との信頼関係の中で自分の気持ちや考えを安心して表し、安定した生活が送れるようにする。 ・　進級に向け、一人一人の子どもの喜びや不安を受け止め、共感することで期待がもてるようにしていく。 ・　５歳児や４歳児と遊ぶ機会をつくったり、４歳児の保育室に行ったりして、進級に期待がもてるようにする。 ・　自分から身の回りの始末をしようとする姿を認めたり励ましたりしてできた喜びに共感する。 ・　手洗い・うがい、衣服の調節、上着の着脱などを一緒に行い、健康に過ごすために大切であることを繰り返し知らせていく。 ☆　思いきり跳ぶ・走るなど体を動かして遊べるような環境を工夫する。 ☆　保育者も遊びながら、体を動かして遊ぶ楽しさを伝えていく。 ☆　劇遊びや表現遊びの機会をつくり、保育者がモデルとなって動いたり、子どもたち一人一人のイメージや表現を認めたりし、様々な表現を楽しめるようにしていく。 ☆　歌や踊り、楽器遊びで子どもがやりたい時にすぐに取り組めるような場を作る。 ☆　季節ごとの自然現象や季節の移り変わりを保育者が見逃さないようにし、子どもたちに知らせたり、子どもの気付きや感じたことを共感したりしていき興味につながるようにしていく。また、直接見たり触れたりが難しい時は　絵本や紙芝居を活用していく。 ☆　子どもの思いをじっくり聞いたり受け止めたりし、安心して話せる雰囲気をつくり、友達に自分の思いを伝えていけるようにする。 ☆　友達と一緒に表現する楽しさを味わったり、自分なりの表現を楽しんだりできるよう環境を整える。
家庭との連携	・一年間の子どもの成長の姿を保護者に伝え、一緒に成長を確認し、喜び合えるようにする。 ・感染症など体調を崩しやすい時期なので、一人一人の体調について連携を密にしていく。 ・個人差が大きく進級に向けての不安を感じる保護者には、今できることを十分に認め、成長を見守ってもらうようにする。
評価	

第　１１　期	４歳児（第１期）４月～５月
子どもの姿	＜新入児＞ ・ 新しい所・園生活に期待をもっている子どもが多い。中には、入所・入園前の友達（年齢を同じくする兄弟関係・近所）とのつながりや開放広場などの経験から顔見知りの子どもといることで、安心している様子も見られる。 その一方で親と離れることへの不安や緊張を感じていて、何をしてよいか分からずじっとしている子どもや遊びを見ている子ども、思いのまま行動する子どももいる。 ・ 自分のしたい遊びを見つけることができるようになってくるが、保育者と一緒に遊ぶことで安心する姿も見られる。 ・ ロッカー・靴箱の場所や所持品の始末の仕方などは、毎日繰り返し行うことで身に付き自分の力で取り組もうとする姿が見られる。しかし、所持品の始末に対する意識や取り組みについては個人差がある。 ＜継続児＞ ・ 進級した喜びや期待をもって生活し、新入児に自分の知っていることを積極的に伝え、関わる子どもがいる。反面、環境の変化に不安を示したり、甘えたりする姿も見られる。
内容	○ 保育者や友達に親しみ、安心して登所・登園する。 ・保育者の名前や顔を覚える。　・保育者の側にいることで安心する。 ・いろいろな友達がいることを知る。 ・自分のクラス名が分かり、みんなと一緒に行動する。 ○ 新入児は、保育者や継続児・５歳児と関わりながら、所・園生活の仕方を知る。 ・保育室や自分のロッカーの場所、所持品の始末の仕方、遊具の扱い方や片付け方 ・施設の名称や遊具、用具の安全な使い方 ・給食の準備や片付けの手順、トイレの使い方 ○ みんなと集まって活動することを楽しむ。 ・絵本や紙芝居を見たり聞いたりする。 ・リズム遊びや手遊びをしたり歌ったりする。 ○ 自分の好きな遊びの場や遊具を見つけて、安心して遊ぶ。 ・いろいろな遊具があることを知り、興味をもって遊ぶ。 ・保育者や友達に親しみをもち、好きな遊びをする。 ・簡単な挨拶をしたり、してほしいことやしたいことを保育者や友達に伝えたりする。 ○ 春の自然や身近な小動物に親しむ。 ・散歩をしたり草花・虫探しをしたりして、身近な自然に触れて遊ぶ。 ・小動物を見たり、餌を与えたり触れたりする。
行事	・進級式　・始業式　・入園式　・内科検診　・眼科検診　・歯科検診 ・体位測定 ・誕生会　・避難訓練　・保護者懇談会、保育参観　・交通安全指導

ねらい	☆新しい環境に慣れ、保育者や友達に親しみをもち、安心して過ごす。 ☆自分のやりたい遊びを見つけ、保育者や気の合う友達と遊ぶことを楽しむ。 ☆施設・用具・遊具の扱い方や身の回りの始末の仕方を知り、自分でやってみようとする。 ☆春の自然や身近な小動物に親しむ。
環境構成及び援助と配慮	・子どもの様子を見ながら保育者から声をかけたり、一緒に遊んだりすることで、安心して過ごせるようにする。 ・新入児と継続児の生活経験の違いが表れるため、子どもの行動や状態を受け入れ認めたり言葉をかけたりし、一人一人に合った援助を行い安心して過ごせるようにする。 ・所・園での生活の仕方やトイレ･水道の使い方、給食の準備や片付けの方法・手順など、全体の場や個々に応じてその都度知らせる。 ・ロッカーや靴箱などに同一の印をつけ、自分の場所を分かりやすくする。 ☆すぐに遊び出せる場づくりと遊具の量を用意することで、自分のやりたい遊びを見つけ、安心して遊ぶことができるようにする。 ☆ 遊びに入れない子どもや不安そうな子どもには、保育者が一緒に遊びながら遊びのきっかけをつくる。 ☆ 友達との遊びの中で、「ごめんなさい」「ありがとう」「貸して」「やめて」などの必要な言葉を、場を捉えながら知らせていく。 ☆ みんなで集まる時には、興味をもって話が聞けるように表情や声の調子を変えたり、指人形や絵表示などを使ったりする。 ☆ 簡単なリズム遊びや手遊び、追いかけっこなどの集団遊びを取り入れ、保育者や友達と遊ぶ楽しさを味わえるようにしていく。 ☆ 遊びの中で、用具や遊具の扱い方やきまりを知らせていく。 ☆ 身近な小動物を見たり触れたりできるように、場の構成を工夫し、餌になる草や野菜を探して与えるなどして、触れ合えるようにする。 ☆ 庭に咲いている草花に気付けるように声を掛け、遊びの中に取り入れながら春の自然に興味や関心がもてるようにしていく。
家庭との連携	・環境の変化により心身共に疲れが出やすい時期なので、家庭ではできるだけゆったり過ごすように伝える。 ・懇談会で一年間の方針を伝え共通理解を図ったり、進級や入所・入園してからの様子や姿をクラス便りや連絡帳などで伝えたりしていく。
評価	

第　１２　期	４歳児（第２期）６月～８月
子どもの姿	・ 所・園での生活の仕方が分かってきて、同じ場にいる友達や同じ遊びをしている友達を見たり模倣したり話しかけたりするなど、気の合う友達ができ始めている。一方、一人で遊ぶことに満足している子どももいる。 ・ 所・園生活に慣れ自分の思いを出せるようになってきたことで、物の取り合いが起こったり、一緒に遊んでいる中で自分の気持ちがうまく伝えられずに保育者に訴えたりする姿が見られるようになる。 ・ 保育者の話を聞いて友達と一緒に行動できるようになる。また、クラスの友達と一緒に遊んだり集まって歌を歌ったりすることが楽しいと感じ始める。 ・ うまくいったことやできるようになったこと、頑張ったことなどを保育者に見て欲しいとアピールする。
内容	○　所・園生活の仕方や流れが分かってきて、自分でできることは自分でしようとする。 ・衣服の着脱・食事・排泄など身の回りのことを自分で行おうとする。 ・当番活動の仕方を知り、喜んで行おうとする。 ○　梅雨期の生活の仕方を知る。 ・傘や長靴の始末を自分でしようとする。 ・廊下やテラスが滑りやすいことを知り、気を付けて行動する。 ○　いろいろな遊びに興味をもち、保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 （ルールのある鬼遊びや楽器遊び、リズム遊びなど） ○　同じ場にいたり同じ物を持ったりしながら、友達と触れ合って遊ぶことを楽しむ。 ・したことや見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりに言葉や動きで表現しながら、同じ場にいる友達と一緒に遊ぶ。 ○　いろいろな素材に触れて、自分の思ったことや感じたことを表現する。 （空箱制作・粘土遊び・絵の具遊び・水遊びなど） ○　水の冷たさや心地よさを味わいながら水に親しむ。 ・一人一人が安心して水遊びに取り組む。 ・砂や水を使った遊びに親しみ、砂や泥・水の感触の心地良さを味わう。 ○　草花や野菜の種まきや苗植えなどをして大切に世話をし、収穫の喜びを味わう。 ○　夏季の生活の仕方を知る。 ・汗の始末の仕方、休息や水分の摂り方、水遊びの準備や後始末の仕方などを知り、自分で行おうとする。
行事	・プール開き　・夏祭り　・七夕　・誕生会　・体位測定　・避難訓練 ・保護者参観　・個人面談　・終業式

ねらい	☆ 自分のやりたい遊びを見つけて楽しんだり、友達に関心をもち一緒に遊ぶことを楽しんだりする。 ☆ 水の冷たさや心地よさを感じ、水に親しむ。 ☆ 梅雨時や夏の自然、身の回りの動植物に関心をもつ。
環境構成及び援助と配慮	・ 夏季の生活習慣に留意し健康で安全な生活ができるよう、衣服の着脱・手洗い・うがいなどを自分で行おうとする姿を十分認めたり、必要に応じて個別にやり方を知らせたりしていく。また、換気や冷房の調節にも注意していく。 ・ 戸外遊びでは遊ぶ時間帯や場所などに配慮して、紫外線及び熱中症対策をする。 ・ 休息や水分補給は十分に行っていく。 ☆ 子どもが自分から遊びや活動に取り組めるよう環境を構成し、一人一人に応じた援助をする。一人一人の興味や動きに共感したり認めたりしていくと共に、友達と同じ遊びができるよう材料・遊具などは豊富に用意しておく。 ☆ 子どもの思いを受け止め、友達に思いが伝わるように代弁したり、子どものつぶやきや動きを周囲に広めたりして、友達とつながりがもてるようにしていく。 ☆ 遊びの中で生じるトラブルについては、保育者が仲立ちとなり、友達への思いの伝え方や遊びへの参加の仕方が分かるようにする。 ☆ 遊びに興味関心がもてるように、子どもの姿や遊びの内容に応じて、保育者が事前に環境を設定したり子どもと一緒に準備したりしていく。 ☆ いろいろな遊びを楽しむ中で、気付いたことや試している姿などを受け止めたり共感したりして、驚きや発見の喜びが味わえるようにする。 ☆ 身近で扱いやすい遊具や材料を用意し、自由に使ったり組み合わせたりして、遊びの幅が広がるようにしていく。 ☆ 水や砂・泥の感触を十分に味わえるような場を設定し、取り組む時間の保障をする。 ☆ 自然物に十分に触れることができるように、所・園の栽培物を整備する。また、小動物の飼育ができる環境を整え、虫捕りをしたり喜んで世話をしたりする中で、生き物の様子に関心をもつことができるようにする。
家庭との連携	・水遊びやプール遊びなどを実施するにあたり、家庭で必ず健康チェック表に健康状態を記入してもらい、登所・登園後の視診と併せて健康状態を細かく把握する。 ・家庭においても紫外線及び熱中症の予防をすることの大切さを知らせ、紫外線及び熱中症対策に心掛けるよう伝えていく。（戸外では帽子をかぶる。こまめな水分補給など）
評価	

第　１３　期	４歳児（第３期）９月～１０月
子どもの姿	・長期休み明けで不安を示す子どももいるが、張り切って登所・登園して、保育者や友達との再会を喜ぶ姿も見られる。 ・長期休み明けの友達を迎えて、一緒に遊ぼうとする。 ・同じ場で友達と一緒に遊びながら、仲間意識をもち始める。 ・友達に対する関心が強くなり、友達が泣いたり困ったりしていると自分ができることをしたり、保育者に知らせたりするなど、優しく接する姿が見られる。その反面、間違いを強く言ったり良い悪いに関係なく周囲の幼児の言動に影響を受けたりしやすい。 ・年長児の遊びを見て、興味や憧れから自分もやってみようとする。
内容	○ 所・園の生活の仕方を思い出し、自分でできることは自分でしようとする。 ・所持品の始末・手洗い・うがいなど自分から行おうとする。 ・気温や活動量に応じて衣服の調節をしようとする。 ○ 自分の思いやイメージを出して、友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。 ・友達に自分の思ったことや感じたことを伝えようとする。 ・友達との遊びの中で、自分の考えや思いを話したり、自分なりのイメージを表現したりする。 ○ 体を十分動かしながら、みんなと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・みんなと一緒に取り組む運動的な遊びの面白さや競い合う楽しさを感じる。 ・曲に合わせて友達と一緒に歌ったり、踊ったりする楽しさを感じる。 ・簡単なルールが分かり、守って遊ぶ。 ・走ったり、跳んだり、くぐったりなど体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○ 秋の自然に親しむ。 ・自然物の収穫を喜び、見たり触れたりしながら興味関心をもったり、自然物を使って遊び、形のおもしろさや色の美しさなどに気付いたりする。 ・開花に期待をもって球根（チューリップなど）植えをし、世話をする。 ○ いろいろな材料や素材を使って、感じたことや考えたことをかいたり、つくったりしながら表現することを楽しむ。 ○ いろいろな行事に関心をもち、参加する。
行事	・始業式　・運動会　・遠足 ・誕生会　・避難訓練　・体位測定　・芋掘り

ねらい	☆自分なりに思いを出しながら気の合う友達との関わりを楽しむ。 ☆体を動かして遊ぶことや、みんなと一緒に活動に取り組むことの楽しさを味わう。 ☆秋の自然に関心をもち、見たり触れたりして遊ぶ。
環境構成及び援助と配慮	・ 長期休み明けで、気持ちが不安定になる子どもがいるので一人一人の様子をよく見ながら生活のリズムが取り戻せるようにし、健康状態を十分把握する。 ・ 休息や食事をしっかりとるようにし、暑い時は水分補給をしていく。また、朝、夕の気温の変化に応じて衣服の調節を促したり、窓の開閉をしたりして快適に過ごすことができるようにする。 ☆ 一人一人のめあてを子どもとともに見出し、意欲的に取り組めるように認めたり励ましたりしていく。 ☆ 気の合う友達が見つからない子どもや友達との関わりが少ない子どもには、関わりがもてるようなきっかけをつくったり相手に思いが伝わるように仲介したりしていく。 ☆ 自分なりに「〇〇してみよう」という気持ちをもって取り組み実現できるように、場や材料を用意すると共に、子どもの思いや考えを引き出すような援助を行う。 ☆ 友達の良いところや頑張りを知らせ、友達を応援するなど互いが認め合える機会をつくる。 ☆ 子ども同士が刺激を受けながら遊びに取り組めるよう、互いの姿が見えるような遊びの場の位置や向きなどに配慮していく。 ☆ 体を動かす遊びに進んで取り組めるように、子どもが出し入れしやすい運動遊具の置き方を工夫したり、遊び方を知らせたりしていく。 ☆ 運動的な遊びに取り組む中で、一人一人の頑張っている姿や楽しんでいる姿を認めて自信をもたせたり、遊びの楽しさが十分味わえるようにしたりしていく。 ☆ 秋の自然に親しみがもてるように、自然物に触れたり収穫したりしながら、発見や感動、好奇心を見逃さずに共感していく。また、虫捕りや木の実拾いなどが十分行えるように、散歩に出かけるなど地域の自然環境を活かしていく。 ☆ 拾った木の実や種などを使って遊べるよう材料を用意したり、遊び方を知らせたりしていく。
家庭との連携	・日中の活動量が多くなるので、十分な休息が必要であることを伝える。 ・運動量が増えて汗をかくことが多くなることから、着替えを多く準備するよう伝える。
評価	

第　１４　期	４歳児（第４期）１１～１２月
子どもの姿	・ 気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思ったことやイメージしたことを言葉で友達や保育者に伝えようとする。 ・ 友達との関わりの中で、自分の思いを強く出したり、友達との思いの違いから、トラブルになる姿が見られたりする。 ・ いろいろなことを自分なりに行おうとする意欲が高まり、持続時間が長くなる。 ・ 友達や保育者に自分のやっていることを認めてもらうことで自信をもち、進んで挑戦しようとする。 ・ 年長児の行っていることに興味をもち、真似をしたり遊びの中に入れてもらったりする。 ・ 自分のやりたいことがはっきりしてきて、遊びに必要な物や場を自分でつくる姿が見られる。
内容	○　冬の健康生活に必要な習慣を身に付ける。 ・手洗い、うがい、衣服の調節など冬の生活の仕方を知る。 ○　秋や冬の自然に興味をもつ。 ・自然の移り変わりに関心をもち、探したり触れたりしたことを友達に伝える。 ○　体を思いきり動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○　一緒に遊んでいる友達の中で、自分の思いやイメージを表して遊ぶ。 ・自分の思いや考えを言葉で表現する。 ○　遊びや生活の中のきまりや約束ごとを守って遊んだり、相手の思いや気持ちに気づき考えようとしたりする。 ○　いろいろな歌をみんなで歌ったり、リズムに合わせて楽器を奏したりする。 ○　日本の伝統行事を知り、年末の過ごし方を知る。 ・みんなで餅つきの様子を見て雰囲気を楽しむ。 ・自分たちが使った物を片付けたり、生活している場を掃除したり整えたりする。 ○　必要な物をつくったり、自分のイメージを動きや言葉で表現したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・友達と一緒に役になりきって遊ぶ。 ○　身近な素材や用具を使って、かいたり遊びに必要な物をつくったりする。
行事	・もちつき　・終業式　・お楽しみ会 ・誕生会　・体位測定　・避難訓練

ねらい	☆友達との遊びの中で、自分のイメージや思いを言葉や動きで表現する楽しさを味わう。 ☆身近な素材や用具を使ってかいたり、遊びに必要な物をつくったりする。 ☆秋から冬に向けての自然に興味をもったり、健康な生活の仕方を身に付けたりする。
環境構成及び援助と配慮	・ 秋から冬への季節の変化に伴い、風邪の予防や防寒具の始末の仕方などを具体的に知らせ、自分から行えるようにする。 ☆ 固定遊具や移動遊具などを利用しながら、はう・くぐる・転がる・跳ぶ・登るなどのいろいろな運動や新しいことにも積極的に取り組んだり、めあてに向かって繰り返し取り組んだりできるようにしていく。 ☆ 一人一人の興味や関心に寄り添い、イメージを共有しながら友達との遊びが十分楽しめるような援助をする。 ☆ ゲームや鬼遊びなど共通のルールで友達と一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように、保育者も一緒に遊んだり、繰り返し取り組むことができるように働きかけたりする。 ☆ 自分なりの思いを表現できる場や機会を設けていく。(身体表現・つくる・かく・歌う・踊るなど) ☆ 様々な遊具や素材を子どもの目に触れる場所に置いたり、要求に応じて出したりして自分で扱えるようにする。 ☆ みんなで紙芝居を見た後等、自分の考えを話したり、友達の話を聞いたりする場を設けていく。 ☆ 身近な自然や変化に気付いたり自然物を遊びに使ったりして、自然に触れる経験を取り入れていく。 ☆ チューリップの地植えやヒヤシンスの水栽培を行いながら、根の伸びる様子など、気付かせたり、生長する様子に関心がもてるようにしたりする。
家庭との連携	・寒暖の差が激しく体調を崩すことが多いことから、自分で調整できる衣服を準備してもらう。 ・手洗いやうがいをしっかり行うように知らせる。 ・友達との関わりが増えることにより、トラブルも多くなる。こうした子どもの心情や育ちを家庭に伝え、家庭と連携しながら対応していく。
評価	

第　１５　期	４歳児（第５期）１月～３月
子どもの姿	・年長組になる喜びや期待をもって生活しようとするようになる。 ・友達との関わりが積極的になり、誘い合って遊びを進めていこうとするようになる。また、遊びの中で自分なりの思いや考えを言ったり友達の考えも受け入れたりするようになり、イメージが共通になる部分が多くなる。特定の気の合う友達との関わりが深まり、気の合う友達との遊びを楽しむようになる。 ・同じ目的をもって友達と一緒に活動する楽しさを感じ、クラスの一員として取り組むようになる。 ・遊びに必要なルールを自分たちで決めながら遊びを進めていこうとする。意見がまとまらなかったり、ルールを守れなかったりしてトラブルになることがある。 ・友達と一緒に遊ぶ中で、ほとんどの子どもが自分の思いや考えを表現できるようになってきている。
内容	○　もうすぐ年長になることに期待をもって生活する。 ・年長児の姿を見たり一緒に遊んだりする中で、憧れの気持ちをもつ。 ・当番活動や誕生会の司会などを年長児から引き継ぐ中で、進級の喜びを感じる。 ○　冬の生活習慣を身に付ける。 ・うがいや手洗い、鼻をかむことの大切さが分かり、自分からしようとする。 ○　自分なりの思いを言葉で表したり、相手の思いを聞いたりしながら自分たちで遊びを進めていこうとする。 ○　友達との関わりの中で、相手が嫌な気持ちになることを言ったり、したりしてはいけないということが分かり気を付ける。 ・みんなと同じ活動をする中で、相手の気持ちを聞いたり受け入れたりしていく。 ・歌を歌ったり簡単なリズム楽器を使って奏したりして、音楽に親しむ。 ・身体表現や劇などをして遊ぶ楽しさを味わう。 ・グループやクラス全体で行う遊びの中で自分の力を出し、友達と一緒に活動していくことの満足感を味わう。 ○　冬の自然現象や冬から春への移り変わりに、興味や関心をもつ。 ・雪や霜柱、氷などの冬の自然に触れ、感動したり疑問をもったりする。 ・草花や木々の芽吹きの様子から春の訪れを感じる。 ○　簡単なルールのある遊びを友達と一緒に取り組み、積極的に体を動かして遊ぶ。 ○　かるた・こま・すごろくなどの正月の伝承遊びに関心をもって楽しむ。
行事	・始業式　・体位測定　・生活発表会　・誕生会　・避難訓練　・鏡開き　・節分 ・ひな祭り　・お別れ会　・修了証書授与式　・修了式（終業式）　・離任式

ねらい	☆ 進級することの喜びを感じ、期待をもって生活する。 ☆ 思ったことや考えたことを自分なりに言葉や行動で表現したり、試したり工夫したりながら遊ぶ。 ☆ 自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりしながら一緒に遊びを進めていく。 ☆ 冬から春への自然の様子に、興味や関心をもつ。
環境構成及び援助と配慮	・ 今まで身に付いた生活習慣の一つ一つを確認し、一年間の成長を認めていく。 ・ インフルエンザ等の感染症が流行する時期なので、一人一人の健康状態を十分に把握し、変化のある場合は早急に対応する。 ☆ 思ったことや感じたことを表現して遊べるように、お面・劇の小道具・ペープサート・楽器などをいつでも使えるように整えておく。 ☆ 友達との関わりの中で、友達のアイディアを互いに認め合えるように見守ったり、励ましたり助言をしたりして、一人一人の子どもが安心して自己発揮できるようにする。 ☆ グループや学級全体で行う遊びを取り入れ、自分の力を出し満足感が味わえるようにしていく。 ☆ 保育者も一緒に遊ぶ中で一人一人の表現を認めたり、互いに教え合ったり認め合ったりしている姿を広めていく。 ☆ いろいろな遊びや当番活動の引継ぎ、お別れ会や修了式などを通して、年長組になる喜びや期待をもつとともに、年長児に感謝する気持ちがもてるようにする。 ☆ 冬の健康管理に配慮し、室温・換気・湿度に十分留意して、快適な生活ができるようにする。 ☆ 寒くても戸外で体を動かして遊ぶことを促し、一人一人がめあてをもてるような活動や簡単なルールのある遊びに積極的に働きかけ、継続して取り組もうとする気持ちがもてるようにする。 ☆ 雪・霜柱・風や植物の芽吹きなど、冬から春への自然の移り変わりに興味や関心がもてるようにする。
家庭との連携	・感染症の流行等で体調を崩しやすい時期なので、所・園、家庭の連携を密にし、早期に体調の変化に気付けるようにする。
評価	

第　１６　期	５歳児（第１期）４月～５月
子どもの姿	・年長組になったことの喜びや期待がみられ、４歳児クラスからつながりのある友達と一緒に遊んだりする姿がある。 ・異年齢児の世話や保育者の手伝いなどを進んで行おうとする子ども、手伝いたい気持ちはあるが、戸惑い自分から行動できない子どもの姿が見られる。 ・当番活動を喜んで行いながら、繰り返し取り組む中で保育者と一緒にその内容や方法を覚えていく。 ・好きな遊びを見つけて楽しんだり、友達と一緒に積極的に戸外で遊んだりして動きが活発になる。 ・基本的な生活習慣は身に付いてきている。
内容	○ 年長組になった喜びや自覚をもち、新しい環境に慣れる。 ・自分でできることは自分でする。 ・自分たちの生活がしやすいように、保育者と一緒に環境を整える。 ・自分より年齢の低い子どもが必要としている手助けをしようとする。 ○ 自分の体や食物の関係に関心をもつ。 ・箸を使って食事をする。 ○ 当番活動の必要性が分かり、自分から進んで行う。 ○ 友達と関わりながら、遊ぶことを楽しむ。 ・遊具や用具の正しい使い方を知り、安全に気を付けて遊ぶ。 ・いろいろな素材や用具を使い、かいたりつくったりして遊ぶ。 ○ クラス全体で行う活動に友達と一緒に参加しながら、集団としてのつながりを楽しむ。 ・みんなで思いや考えを出し合いながら、一緒に行動する。 ○ 友達と戸外で思いきり遊び、体を十分に動かす。 ○ 絵本を見たり、物語を聞いたりしたことを遊びの中に取り入れる。 ・ごっこ遊びに必要な物を自分たちでつくって遊ぶ。 ○ 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。 ○ 信号の見方や横断歩道の渡り方、道路の歩き方を知り、安全に気を付けて行動しようとする。 ○ 春の自然に触れ、様々なことに関心をもつ。 ・４歳児の時に植えたチューリップの世話をしたり、開花の様子を見たりする。 ・生長や収穫に期待をもって夏野菜を植える。
行事	・進級式　・始業式　・入園式　・保育参観　・保護者懇談会　・避難訓練 ・交通安全指導　・誕生会　・体位測定　・眼科検診　・内科検診　・歯科検診

ねらい	☆ 進級の喜びを味わい、新しい環境での生活を楽しみながら、年長組としての自覚をもつ。 ☆ 新しい生活の場に慣れ、友達と一緒に遊んだり当番活動をしたりすることを楽しむ。 ☆ 健康、安全などの望ましい習慣や態度を身に付けられるようにする。 ☆ 春の自然や身近な動植物に興味や関心をもって関わる。
環境構成及び援助と配慮	・ 一人一人の子どもの健康状態や内面を把握して、新しい環境の中での生活から生じる緊張や疲れを緩和する。 ・ 生活や遊びの中で一人一人の気持ちや考えを受容し、安定を図ることで新しい保育者への信頼感をもてるようにしていく。 ・ 友達や保育者とともに、所・園生活のきまりや約束事を思い出しながら、年長組になった実感がもてるようにする。 ・ 保育者や栄養士、看護師が視覚を伴ったわかりやすい話をすることで、食物や栄養、体の健康に興味や関心がもてるようにする。 ☆ 異年齢の子どもが喜ぶような関わり方を一緒に考え、異年齢の子どもに優しく接しようとする気持ちや態度を育てていく。 ☆ 進級して生活の変わった部分や習慣を知らせたり、安全に気を付けて遊具や用具を使ったり、所・園生活のきまりを子どもと一緒に再確認したりして、子ども自身が自分で意識できるようにしていく。 ☆ 新しい環境になり、友達との関わりがもてない子どもに対しては、保育者が声をかけたり子どものつぶやきに耳を傾けたりして、友達との関係がもてるようにする。 ☆ 新入児や転入児がクラスの友達と親しみ、安定できるように遊びの場を設定する。 ☆ 避難訓練や交通安全指導を経験する中で、安全に対する認識や関心を高め、保育者の指示を聞いて行動できるよう繰り返し知らせていく。 ☆ 春の自然の様子に興味がもてるよう、戸外での生活を多くして草花などを遊びに取り入れている姿を認めたり遊び方を知らせたりしていく。 ☆ 子どもと一緒に畑作りをして、野菜の苗植えや種まきを行い、生長や収穫に期待がもてるようにする。
家庭との連携	・ 家庭での様子を聞いたり、所・園での姿を伝えたりしながら、年長組になった喜びに共感する。一方、緊張感から疲れが出てくるので、健康管理に配慮してもらう。 ・ 懇談会や送迎時などに幼児の様子を話し合い、保護者の気持ちを受け止めて信頼関係を築いていく。
評価	

第　１７　期	５歳児（第２期）６月～８月
子どもの姿	・ いろいろな行事に積極的に参加し、友達と協力しようとするようになる。 ・ クラスの中で今まで関わることの少なかった友達に関心をもち一緒に遊ぶようになる。 ・ 鬼遊びやゲーム、リレーなどみんなで行う遊びを楽しみ、遊びを知っている子どもが中心になって、自分たちで遊び始めるようになってくる。 ・ 自分なりにめあてをもち、それぞれが自分のイメージを出しながら遊びを進めようとする。また、友達から刺激を受けて同じようにやってみようとしたり、さらに工夫しようとしたりする。
内容	○ 自分の体や健康のことに関心をもち、大切にする方法を知り進んで取り組む。 ・汗の始末をする。 ・水分を補給する。 ○ 友達との遊びの中で、イメージや考えを伝え合いながら一緒に遊ぶ。 ・様々な素材や用具を使って遊びながらイメージを広げ、友達とさらに遊びを発展させていく。 ・友達の考えていることを知ろうとし、共に行動することを喜ぶ。 ○ 経験したことや思いを話し、分りやすく伝えようとする。 ○ 自分たちの生活や遊びに必要なものをいろいろな材料を組み合わせてつくる。 ○ 遊びの中で自分なりのめあてをもって繰り返し取り組み、できたことを喜ぶ。 ○ 曲の感じやリズムをとらえながら、いろいろな歌を歌う。 ○ 積み木・粘土・土・砂などを使って試したり、工夫したりしながら遊ぶ。 ○ 水に親しみながら水遊びをする。 ・プール遊びに参加し、水の中でいろいろな動きをしたりして水に親しむ。 ・水の性質に関心をもつ。 ○ 梅雨期から夏にかけての自然現象や動植物の様子に興味や関心をもち、進んで世話をしたり収穫したりする。 ・梅雨　・夏の空、星　・虫捕り ・夏野菜の生長、収穫
行事	・プール開き　・夏祭り　・七夕　・誕生会　・体位測定　・避難訓練 ・保護者参観　・個人面談　・終業式

ねらい	☆ 自分なりのめあてをもって、運動や遊びに繰り返し取り組む。 ☆ 水や砂の特性を知り、友達と一緒に夏の遊びを楽しむ。 ☆ 身近な生き物との触れ合いや草花遊び、野菜の世話などを通して、夏の自然に親しむ。
環境構成及び援助と配慮	・ 一人一人の健康状態を把握し、適切に対応したり安全に配慮したりする。 ・ 活動内容や体調に合わせて、水分補給・食事・睡眠・休息などの欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びができるようにする。また、室内の温度調整や水遊び時の休息・紫外線予防や熱中症予防などに留意する。 ☆ 友達との関わりを深め、互いを認め合う気持ちがもてるような関係を育てていく。 ☆ 気持ちの行き違いや思いをうまく伝えられずトラブルが起きた時には、互いに話し合って解決できるよう見守ったり助言したりしていく。 ☆ 自分なりのめあてをもち、試したり工夫したりできるような教材を用意していく。その中で、自分なりのイメージを出して遊ぶ楽しさが味わえるように、一人一人のイメージを保育者が受け止め、実現できるようにしたり周りの友達に広めたりする。 ☆ 砂や水を使った遊びに親しみ、水の心地よさを味わう中で、砂や水の性質に関心がもてるようにしていく。 ☆ 室内で十分体を動かして遊べる環境を子どもと一緒に用意し、いろいろな動きが経験できるようにしていく。 ☆ 野菜の収穫や植物の生長に期待をもって大切に世話をする中で、葉の大きさ、結実、色の変化などの子どもの気付きを受け止め、より期待をもって関われるようにしていく。
家庭との連携	・汗の始末、衣服の着脱などが自分でできるように家庭への協力を依頼する。 ・保育参観や個人面談を通して、子どもの成長や子育てについて話し合い、共通理解を図るようにする。 ・家族の一員として手伝いをすることが、子ども自身の成長につながることを知らせ、家の簡単な手伝いができるようにすると共に、家族との触れ合いを大切にするよう伝える。
評価	

第　１８　期	５歳児（第３期）９月～１０月
子どもの姿	・長い休み明けの幼児もいるが、ほとんどの幼児は所・園生活のリズム（生活習慣・友達関係など）を取り戻す。 ・気の合う友達同士からなるグループのまとまりが強まり、ルールをつくって遊ぶようになってくる。 ・生活経験が広がると共に友達同士の会話が盛んになり、遊びの工夫や発展につながってくる。 ・友達関係が安定してきたグループは、個々に自分の力を出しながら友達と一緒に遊びを楽しもうとする姿が見られる。 ・未就園児、地域の人など知り合いに、自分から声を掛けたり、遊びに誘ったりする姿が見られる。
内容	○　決まりや約束を思い出し繰り返すことで、所（園）生活のリズムを身に付ける。 ○　自分から気付いて、汗の始末や衣服の調節をする。 ○　いろいろな運動に興味をもち、力いっぱい体を動かす。 ・運動遊具の使い方が分かり、工夫して自分なりのめあてに向かって取り組む。 ・体を動かす心地良さを味わい、進んで体を動かそうとする。 ○　団体競技を通して友達と協力したり、助け合ったりする。 ・簡単なルールづくりを楽しむ。 ・自分の力を出したり、相手と競い合ったりする楽しさを味わう。また、チームとしてのつながりや、やり遂げた満足感を味わう。 ・友達と教え合ったり刺激し合ったりしながら、いろいろな運動遊びに取り組む。 ・遊びを通して数や量・速さ・位置関係などに関心をもつ。 ○　友達と協力して、遊びに必要な物を用意したりつくったりする。 ○　友達と一緒に遊びを進めていく中で、互いの意見を伝え合う。 ○　行事に積極的に参加し、自分たちにできる役割を果たす。 ○　所・園外保育を通して豊かな自然に触れたりいろいろな人と関わったりする。 ○　身近な秋の自然に親しみ、遊びに取り入れる。 ・色水遊び　・虫捕り　・木の実、木の葉拾い　・球根植え ・自然物を使った制作遊び（木の実・小枝・芋蔓のリースなど） ○　収穫の喜びを味わう。 ・サツマイモ　・ポップコーン
行事	・始業式　・所（園）外保育（バス遠足等）　・運動会 ・誕生会　・体位測定　・避難訓練　・芋掘り

ねらい	☆　共通の目的に向かって、グループやクラス全体で取り組む楽しさを味わう。 ☆　自分なりのめあてに向かって挑戦したり、試したりする。 ☆　友達との信頼関係の中で、自分の考えを伝えたり相手の思いを受け入れたりしながら行動できるようにする。 ☆　季節や生活の変化に気付き、自然物を使った遊びを楽しむ。
環境構成及び援助と配慮	・　気温に合わせて、自分から衣服の調節ができるようにする。 ・　体の疲れや緊張感をほぐすため、休息や食事を適切に摂るようにし、暑い時はこまめに水分補給ができるようにしていく。 ☆　子どもからの話題から会話を広げ、じっくりと話を聞いたりして信頼関係を深めていく。 ☆　自分の力を十分発揮し、やり遂げる喜びや自信をもつことができるよう、頑張る姿を認めていく。また、クラス全体で経験したことを遊びの中で繰り返し行えるようにする。 ☆　いろいろな動きや遊び方が楽しめるような環境を幼児と用意し、個々に挑戦意欲がもてるような働きかけをしていく。 ☆　グループやチーム・クラス意識をもち、その中で互いに話し合ったり励まし合ったり、応援し合ったりする姿を十分認めていく。 ☆　仲間同士教え合ったり、刺激し合ったりしながら目標に向かって努力する経験を通し、目標達成の喜びを共感できるようにする。 ☆　運動会では、幼児の興味や関心を捉え、内容を一緒に考えながら、みんなで作り上げていけるようにする。 ☆　所・園外保育等に参加し、普段味わえないような野外活動を体験する中で、自然と触れ合って遊ぶことを楽しめるようにしていく。 ☆　子どもと一緒に木の実を拾いに行ったり家庭から持って来てもらったりすることで、自然に対する興味や関心がもてるようにする。集めた物を分類したり飾ったりしながら、名前を知らせていく。また、子どもと一緒に遊びの場を整えていく。 ☆　遊びの中で場を捉えて、数・量・速さ・位置関係に関心がもてるようにしていく。 ☆　草花での色水遊びや虫探しなど自然物と関わって遊ぶ中で季節の変化を感じたり、図鑑で調べたり、試したりするなどの経験ができるようにする。 ☆　野菜（サツマイモ・ポップコーンなど）の生長に関心をもち収穫を喜ぶ。
家庭との連携	・早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムが身に付けられるように、連絡を取り合う。 ・子どもの活動に対する取り組み方や成長している姿や取り組む過程を保護者に伝え、共に喜び合えるようにする。
評価	

第　１９　期	５歳児（第４期）１１月～１２月
子どもの姿	・クラスの共通の目標に向かって、友達と工夫したり相談したりしながら、力を合わせて最後までやり遂げようとする。 ・詳しい内容の話ができるようになり、遊びの中での伝達が活発になる。 ・グループでの遊びが多くなり互いの意見や考えを出し合いながら、共通のイメージをもって遊びを進めていくようになる。 ・ルールのある遊びの楽しさがより分かり、友達と一緒に遊び方を考えたり、作戦を立てたりして遊ぶ。また、競争意識も見られるようになってくる。 ・友達の良いところや得意なことなどを認め合えるようになってくる。また、友達を励ましたり教え合ったりする姿も見られる。
内容	○ 冬の生活に必要な衛生習慣に気付き、進んで行う。（手洗い・うがい・鼻かみ・衣服の調節など） ○ 健康診断や体位測定についての話を聞く中で、病気の予防に必要なことを知る。 ○ 自分たちの生活に必要な準備をしたり、片付けたりすることができるようになる。 ○ 友達と共通の目的をもって、協力しながら遊びや活動を進める。 ・クラス全体での活動を楽しみながら友達の良さに気付き、受け入れたり認めたりして、つながりを深める。 ・遊びのルールを自分たちでつくったり守ったりして遊ぶ。 ・友達同士でイメージの共通化を図ったり、役割分担やルールの再確認をしたりして遊びを進めていく。 ○ 見たこと・感じたことや自分の経験したこと・想像したことなどを言葉や動き・音楽・造形など様々な方法で工夫して表現する。 ○ 友達の自分と違った見方や感じ方に気付き、受け入れたり認めたりすることができる。 ○ 秋から冬へと向かう身近な自然の変化に気付き、自然物を使った遊びを楽しむ。 ・秋の自然物（木の葉、木の実、枝）を使った制作を楽しむ。 ・身近な事物や自然に積極的に関わり、見たり、考えたり、扱ったりしながら物の性質や数量・形の違いなどに気付く。 ・クロッカスやヒヤシンスなどの水栽培を通して生長や変化に関心をもつ。 ○ 時間を意識する等、生活の仕方に関心をもつ。 ○ 年末の行事を通して新年への期待をもつ。 ・大掃除　・お楽しみ会　・もちつき
行事	・生活発表会　・もちつき　・お楽しみ会　・バス遠足　・むし歯予防指導 ・保育参観、懇談会　・誕生会　・体位測定 ・避難訓練　・終業式

ねらい	☆　共通の目的に向かって、友達と一緒に考えを出し合ったり認め合ったり協力したりしながら遊びを進める。 ☆　秋から冬への自然の移り変わりを感じとり、自ら関わりながら遊びや生活に取り入れようとする。
環境構成及び援助と配慮	・　冬季を健康で安全に過ごせるように保育室の温度・湿度・換気などに留意する。 ・　病気の予防のために、手洗いやうがい・歯磨きなどの必要性について場をとらえてクラス全体で話し、気を付けようとする気持ちをもたせたり、体調の悪い時には、自分から保育者に知らせたりできるようにしていく。 ☆　一人一人の子どもの目的やイメージ、実態（技術・理解度など）に即して、物の提示をしたり方法を知らせたりしながら、それぞれの幼児が満足感をもてるようにする。 ☆　友達同士で思いや考えを出し合う中で、相手の考えに気付いたり受け入れたりしながら、相手の気持ちを考えられるようにしていく。 ☆　イメージを共通化し、自分たちで遊びを進めていけるようにする。また、保育者は互いの思いが伝わるように橋渡しをしたり、遊びが停滞した時には原因を把握したりして、自分たちで解決できるようなきっかけをつくっていく。 ☆　グループの仲間関係や力関係を把握し、一人一人の良さが活かされるように配慮しながら、友達とのつながりが深まるようにしていく。 ☆　友達の取り組みを見たり聞いたりする場を設け、友達の良いところを認めていく中で、互いに刺激し合い、一人一人が自信をもって生活できるようにする。 ☆　友達と奏し方や音色、リズムなどを合わせて奏したり、役になってやりとりを楽しんだりできるように環境を整えていくことで、表現する喜びを味わえるようにする。 ☆　今日の予定や集まる時間などを知らせ、見通しをもって遊んだり生活したりできるようにしていく。 ☆　秋から冬への自然の変化に関心をもち、いろいろな事象や現象に触れる中で様々な気付きや疑問を受け止めていく。また、自分で確かめられるように図鑑や絵本を準備したり、クラスの話題として取り上げ、みんなで考えたり話し合ったりする場を設ける。
家庭との連携	・冬に向けて健康で過ごすことができるよう、手洗いやうがい、薄着の習慣をつけていく。 ・病気予防のため十分な休息やバランスのとれた食事を家庭でも心掛けてもらう。 ・正月休みやいろいろな人と出会う機会を利用し、子どもなりに場に応じた行動が取れるようにしてもらう。
評価	

第　２０　期	５歳児（第５期）１月～３月
子どもの姿	・自分でできることは進んで最後まで行うようになる。 ・生活や遊びに見通しをもって、グループやクラス全体の友達と積極的に活動しようとする。 ・友達の頑張っている姿を認めたり相手の気持ちを感じ取ったりして、行動できるようになってきている。 ・もうすぐお別れという気持ちから年長児として年下の子に優しく接したり、小学校への期待をもって生活したりする。
内容	○ 冬を健康に過ごすために必要な習慣や態度、生活のリズムを身に付けたり、生活の見通しをもって行動したりする。 ○ 正しい食事のマナーが身に付き、一定時間で食べ終えることができるようになる。 ○ グループやクラスの目的に向かって話し合ったり、力を合わせて取り組んだりしてやり遂げた満足感や達成感を友達と共感し合う。 ○ 自分の考えを出したり、友達の考えを受け入れたりして、協力しながら遊びに取り組む。 ○ 友達と共に遊びの目的に合った材料を選び、その特性を活かしながら工夫したり、最後まで丁寧につくったりする。 ○ 読んだり書いたり数えたりする中で、文字や数・量・形への興味、関心をもつ。 ・ものを数えたり、比べたりする。 ・トランプ・かるた・すごろくなどで遊ぶ。 ○ 修了を意識し、入学への期待をもって行動する。 ・４歳児に当番活動や仕事内容を知らせ、引継ぎをしていく。 ・作品・所持品の整理や使用したロッカー・保育室の掃除を行いながら修了が近いことを実感する。 ○ 小学校の生活を知る(興味をもつ)。 ○ 冬から春への自然の移り変わりに興味や関心をもつ。 ・植物の生長や木々の芽吹きに気付いたり、日だまりの暖かさを感じたりする。
行事	・始業式　・鏡開き　・節分　・誕生会　・体位測定　・避難訓練　・ひな祭り ・お別れ会　・お別れ遠足　・懇談会（就学に向けて）・個人面談　・一日入学 ・修了証書授与式　　・離任式

ねらい	☆　クラス全体の課題や目的をもって意見を出したり、協力したりして遊びを進め充実感を味わう。 ☆　一年生になる喜びと自覚をもち、自分たちで遊びや生活を進める。 ☆　冬から春への自然に興味や関心をもつ。
環境構成及び援助と配慮	・　基本的生活習慣について、一人一人の状況を把握し再確認したり個別に指導したりしていく。 ☆　共通の目的に向かって自分たちで相談して進められるよう、話し合いの筋道を必要に応じて投げかけ、友達の良さに目を向けるきっかけをつくっていく。 ☆　生活や遊びの中で、文字や数字に関心をもち、友達同士で教え合ったり刺激し合ったりする姿を大切にしていき、文字や数字を使うとより遊びが楽しくなることを知ったり、体験したりできるようにしていく。 ☆　課題に向かって取り組む子どもの行動を認めたり、最後まであきらめずに取り組めるよう励ましたりして、達成感が味わえるようにしていく。 ☆　もうすぐ一年生になる喜びや緊張感を受け止めながら、修了までの予定や流れを表示したり必要なことについて話し合ったりして、見通しをもって進められるようにしていく。 ☆　小学校の話（身支度、給食、登下校など）をする中で、期待をもつことができるようにしていく。また、必要な物の用意を自分で行おうとする意識を高めていく。 ☆　入学に対して不安を感じている子どもには、気持ちを受け止め、安心できるように援助していく。 ☆　修了を迎え、お世話になった人達に、感謝の気持ちがもてるようにしていく。 ☆　冬ならではの自然に親しむ機会を逃さず、様々な体験ができるようにしていく。 ☆　暖かくなってきたことや木々の芽吹きなどを通して、春の訪れを感じ取れるようにする。
家庭との連携	・子どもが小学校へ行くことに期待と希望をもてるような関わりについて知らせていく。また、入学に対して保護者が不安や緊張をもたないように、具体的な内容を知らせていく。 ・生活に必要な物を子ども自身が保護者に伝えて持参するなどの経験をしながら、少しずつ自分でできるよう家庭と協力していく。 ・親子で通学路を確認する、実際に何度か歩いてみる、近所の友達がいるかを確認する等入学後に安心して登下校ができるように家庭と連携をとりながら行う。
評価	